

参考保元物語

二上

文  
88  
目

リ 5  
1384  
4



伊藤  
1384  
卷 4

伊藤

參考保元物語卷第二目錄

義朝白河殿夜討事

白河殿攻落事

新院左府御没落事

新院御出家事

朝敵宿所燒拂事

關白殿歸復本官事

左府薨逝并大相國忠實御歎事

重成奉敕奉守護新院事

明治三十二年十一月五日

平内維茂氏寄贈

伊藤保元物語 卷第二目錄

謀反人各召捕事

重仁親王御出家事

為義降參事

謀反人被誅事

為義最期事

義朝弟被誅事

參考保元物語卷第二



魯齋今井弘濟將興甫 考訂

常陽水戸府

著軒内藤貞顯仲微甫 重校

義朝白河殿夜討事

自此至重成奉敕奉守護新院段鎌倉本闕此間稱

諸本者鎌倉本不與焉

白河殿ニ八角トモ知シ召サリシカハ左大臣殿

武者所ノ親久

半井本作近久

ヲ召レテ内裏ノ様見テ參

レト仰ケレハ親久即馳歸官軍既ニ寄候ト申モ

果子ハ先陣既ニ馳來ル



○京師本杉原本半井本竝云。親久ヲ召。キツト窺  
 テ參レトテ。御厩ノ御馬ヲ賜フ。親久鞍置ニ及  
 ハス乘テ出。即馳歸。官軍向候。御厩以下。半井本  
 不載。而云。近久馳  
 歸。兵共馬ニ乘。義朝只今半類カケ。黒  
 馬ニ黒鞍置。手打カケテ向候。云云。ト申モ果  
 又ニ。西ノ河原ニ時ヲ作ル事三箇度也。半井本  
 無三箇  
 度。爲朝ハ能申ケルモノヲト萬人申合。云云。  
 其時鎮西ハ。郎申ケルハ。爲朝ガチタヒ申ツルハ。  
 爰候爰候ト忿リケレトモ力及ハス。杉原本云。左  
 府爲朝ヲ召  
 テ。敵既ニ寄タリ。罷向  
 テ防ヘシトテ。云云。爲朝ヲ勇センタメニヤ。俄

ニ除目行ハレテ。安弘藏人タルヘキ由仰ケリ。京師  
 本杉原本。藏人。上無安弘字。半井本。安弘。上有爲朝  
 字。按新院召。爲義段。半井本既載。安弘補藏人。今重  
 出。未レ知ラ  
 孰是。是九ヲハ。郎是ハ何ト云事ソ。敵既ニ寄來ルニ。方  
 方ノ手分ヲユツセラレンスレ。只今ノ除目物忽  
 也。人々ハ何ニモ成給ヘ。爲朝ハ今日ノ藏人トヨ  
 ハレテモ何カセシ。只元ノ鎮西ハ。郎ニテ候ハシ  
 トソ申ケル。此。上ハ郎語。京師杉原本半井三本不載。  
 京師本杉原本唯云。ハ郎物サワカニ  
 ノ除目ヤトツフヤク。去程ニ下野守義朝ハ。二  
 大炊御門ヘ向フ。云々。條ヲ東ヘ發向ス。安藝守清盛モ同ク續テ寄ケル

カ。明レハ十一日東塞リ成ウヘ。朝日ニ向テ弓引  
 ン事恐有トテ。三條ヘ打下リ。河原ヲ馳渡シテ。東  
 ノ堤ヲ上リニ。北ヘ向テソ歩セケル。本、書堤、下、有、  
 脱字。今依テ異  
 本補之。十一日云々至此。京師本杉原本出。下野守  
 于此下白川殿攻落段。為義朝所為。可并見。  
 八大炊御門河原ニ。前ニ馬ノ懸場ヲ殘シテ河ヨ  
 リ西ニ。東カシラニヒカヘタリ。半井本云。義朝ハ  
 大炊御門河原ニ。  
 川ヨリ西ニ向テ控ヘタリ。家成中納言ノ宿所ノ  
 前ニモ少々者トモ控ヘタリ云々。下野守以下至  
 此。京師本。新院ノ御所ニモ敵既ニ西南ノ河原ニ  
 杉原本無。親波ヲ作テ攻來レハ。為義以下ノ武士。各固タル

門々ヨリ懸出ケリ。判官カ手ニハ。四郎左衛門賴  
 賢ト。八郎為朝ト。先陣ヲ爭テ。既ニ珍事ニ及ハン  
 トス。半井本云。為義子共六人先陣ヲ爭ケル云々。賴賢思ヒケルハ。今子  
 共ノ中ニハ我コソ兄ナレハ。今日ノ先陣ヲハ誰  
 カハ懸ント云。為朝ハ又。恐ラクハ弓矢取テモ打  
 物取テモ我コソアラメ。其上判官モ。軍ノ奉行ヲ  
 仕ラセラル、上ハ。我コソアラメト論シケルカ。  
 暫思案シテ。兄達ヲモ蔑ニスルエセ者トテ。親ニ  
 不孝セラレシカ。適勘當赦サレタル身ノ。父ノ前

ニテ兄ト先ヲ論セン事。惡カリナント思ヒケレ  
ハ。半井本云。為朝打寄テ申ケルハ。和殿原論シ給  
ヘキナレトモ。疾ケモサキカケ給ヘ。但所詮  
弱リ給ハニ時。為朝候ヘハ懸合奉ラニ云々。誰  
誰ケモ懸サセ給ヘ。強カラニ所ヲハ。幾度モ承テ  
支奉ラントソ申ケル。

○京師本杉原本竝云。判官ノ子共我先ヲ懸ント  
諍ケレハ。為朝打寄テ。何事ヲ御論候ヤラニ。合  
戰ノ場ニハ。兄弟ト云差別有ヘカラス。只器量  
ニ依テ先ヲ懸ルニテ候ヘハ。某先陣仕テ見參

ニ入度候ヘ共。サラ又タニ某ハ。兄ヲモ兄トモセ  
又。上世者ト云沙汰ノ候ナレハ。論シ申テモ無  
益也。但敵ノ強ク候ハニ所ヲハ。幾度モ為朝ヲ  
向ラレテ御覽候ヘトテ引退云々。此下頼賢出  
戰京師本杉

原本  
不載

四郎左衛門是ヲ聞モトカメス。半井本云先陣ヲ  
兵ヲ前後左右ニ立。門ヲ出。川ヲ隔テ。西ニ向テ申  
ケルハ。西ヨリ寄ルハ誰カ手ノ者ク。カク申ハ云  
云。則西ノ川原ヘ出向。絆村濃ノ直垂ニ。月數ト云  
鎧ノ朽葉色ノ唐綾ニテ威タルヲ著。二十四差タ

ル大中黒ノ矢頭高ニ負<sup>オヒ</sup>ナシ。重藤ノ弓真中取テ。月毛ナル馬ニ鏡鞍置テノ乗タリケル。大炊御門ヲ西ヘ向テ防ケルカ。爰ヲ寄ルハ源氏カ平家カ名乗レ聞シ。角申ハ六條判官爲義カ四男。前左衛門尉頼賢トソ名乗ケル。河向ニ答テ云。下野守殿ノ郎等相摸國住人。首藤刑部丞俊通子息瀧口俊綱。前陣ヲ承テ候ト申セハ。偕ハ一家ノ郎等コサシナレ。汝ヲ射ルニアラス。大將軍ヲ射ルナリトテ。川越ニ矢ニツ放ツ。夜中ナレハ誰トハ知ラス。

矢面ニ進タル者ニ騎射落サレヌ。四郎左衛門モ内<sup>ウチ</sup>堯<sup>カタ</sup>ヲ射サセテ引退。下野守ハ矢合ニ郎等ヲ射サセテ。安カラス思ハレケレハ。

○半井本云。俊通嫡子俊綱ト名乗。サテハ汝ヲ射ルニ非ス。大將軍ヲ射ルニコソアレトテ。西ノ河原ヘ馳渡リ。大勢ノ中ヘソ懸入ケル。手取ニセントシケレトモ。手ニモ懸ラス馳廻リケリ。義朝カ兵ニ騎進出テ戰。頼賢ヲ射レトモ矢モアタラス。頼賢矢ツキハヤニテ一二ノ矢ヲ放

ツ。目前ニ。二人ハ射落シテ。東ノ川原ヘ引テ出  
ス。義朝是ヲ見テ安カラストテ。云々。

既ニ懸ントシ給ヘハ。鎌田次郎正清（多）纏ニ取附テ。  
爰ハ大將軍ノ懸サセ給フ所ニテ候ハス。千騎カ  
百騎。百騎カ十騎ニ成テコソ打モ出サセ給ハメ  
ト申ケレトモ。猶懸ントシ給フ間。歩立ノ兵八十  
餘人アリケルヲ招寄テ。此由ヲ云合。大將軍ヲ守  
護セサセ。正清馬ニ打乗テ。真先ニコソ進ケレ。  
本無正清馬以下句。頼賢出戰至此。京師本杉原本  
不載而正清叩馬諫義朝一節出於下段。義朝為朝

防戰條。安藝守ハ二條川原ノ東堤ノ西ニ向テ控  
可并見。半井本云。二條河原ノ東堤ノ西ノハタニ。  
ヘタリ。北ヘ向テソ控ヘタル。三條ヲ河原ヘ打出。  
筋違ニ東河原ニ打渡テ堤ヲ上リニ寄ケ。其勢ノ  
ル云々。此下京師本杉原本有異。別出于下。其勢ノ  
中ヨリ。五十騎許先陣ニ進テ押寄タリ。爰ヲ固メ  
給フハ誰人ヲ名乗セ給ヘ。角申ハ安藝守殿ノ即  
等ニ。伊勢國住人故市伊藤武者景綱。同伊藤五。伊  
藤六トソ名乗ケル。ハ即是ヲ聞汝カ主ノ清盛ヲ  
タニ。アハ又敵ト思フナリ。平家ハ栢原天皇桓武  
ノ御末ナレトモ。時代久クナリ下レリ。源氏ハ誰



カハシラヌ。清和天皇ヨリ爲朝マテハ九代也。六  
孫王ヨリ七代八幡殿ノ孫。六條判官爲義カ八男。  
鎮西八郎爲朝ツ。景綱ナラハ引退ケトソ宣ケル。  
景綱昔ヨリ源平兩家天下ノ武將トシテ。違敷ノ  
輩ヲ討ニ。兩家郎等大將ヲ射ル事互ニ是アリ。同  
郎等ナカラ公家ニモ知ラレ進ラセタル身也。其  
故ハ伊勢國鈴鹿山ノ強盜ノ張本。小野七郎ヲ搦  
テ。副將軍ノ宣旨ヲ蒙シ景綱ツカシ。下臈ノ射ル  
矢立カ立ヌカ御覽セヨトテ。能引テ射タレトモ。

半井本云。御曹司ノ練鐔ノ太刀ノモハヨセニソ  
射留タル。五十餘騎カ放ツ矢ハ。一ツモ敵ニ立サ  
リケリ。爲朝大爲朝是ヲ事トモセス。アハ又敵ト  
ニ笑テ云ケ。汝カ詞ノ艶キニ。矢一ツ賜ハラシ受テ  
見ヨ。且ハ今生ノ面目。又ハ後生ノ思出ニモセヨ  
トテ。三年竹ノ節近ナルヲ少シ押磨テ。山鳥ノ尾  
ヲ以テ作タルニ。七寸五分ノ丸根ノ篋中過テ篋  
代ノアルヲ打クハセ。暫持テヒヤウト射ル。半井本云。  
今、生後世ノ名聞ニモセヨトテ。真先ニ進ナル伊  
サキ細ノ中差能引テ放ツ云々。藤六カ半井本云。當年十七。死生不知ノ兵也。藤黃  
白ノ鎧ニ。三枚塀ニ。條羽ノ矢負。三所藤ノ

源氏物語 卷二

弓持。鹿毛ナル馬ニ胸板カケス射徹ニ。餘ル矢カ。

伊藤五カ射向ノ袖ニ。裏返テソ立タリケル。六郎

ハ矢場ニ落テ死ニケリ。伊藤五此矢ヲ折カケテ。

大將軍ノ前ニ參テ。八郎御曹司ノ矢御覽候へ。凡

夫ノ所爲トモ覺候ハス。六郎既ニ死候又。半井本云。又忠

清手負テ候。是ハ伊藤六カ胸板ヲ射通レテ。某カ

射向ノ袖ニ裏カイテ候カ、ル弓勢コソイマタ

見候ハト申セハ。安藝守ヲ始テ。此矢ヲ見ル兵共。

皆舌ヲ振テソ恐ケル。景綱申ケルハ。景綱半井本作忠清。彼

先祖八幡殿。後三年ノ合戦ノ時。出羽國金澤ノ城

ニテ武則清原光方子。カ申ケルハ。君ノ御矢ニ中ル者。

鎧塙ヲ射徹サレスト云事ナシ。抑君ノ御弓勢ヲ

夕シカニ拜ニ奉ラハヤト望ミケレハ。義家革能大

鎧三領重子。木ノ枝ニ懸テ。六重ヲ射徹ニ給ケレ

ハ。鬼神ノ變化トソ恐ケル。是ヨリ彌兵共歸服シ

ケリト申傳ヘテ聞ハカリ也。眼前ニカ、ル弓勢

モ侍ニヤ。穴怖シトソオチアヘル。半井本云。是ハ

テ鎧ノ四五領モ重著サラニハ人種アルニ。

如何セン引返サセ給ヘト申ケレハ。重盛是ヲ聞

テ云々。此下別出下。與角口々ニ云レテ。大將宣

ケルハ。必清盛カ此門ヲ承テ向タルニモアラス。  
何トナク押寄タルニテコソアレ。何方ヘモ寄ヨ  
カシ。サラハ東ノ門カトアレハ。兵皆ツレモ此門  
近ク候ヘハ。若同人ヤ固テ候ラン。只北ノ門ヘ向  
ハセ給ヘトイヘハ。サモ云レタリ。今ハ程ナク夜  
モ明ナンス。然レハ小勢ニ大勢懸立ラレシモ見苦  
カリナントテ引退處ニ。嫡子中務少輔重盛。生年  
十九歳。赤地錦直垂ニ。澤瀉威ノ鎧ニ。白星ノ盔カサトヲ  
著。二十四差タル中黒ノ矢負。二所藤ノ弓持テ。黄

河原毛ナル馬ニ乗。進出テ救命ヲ蒙テ罷向タル  
者カ。敵陣コハシトテ引返ス様ヤアルヘキ。續ケ  
ヤ若者トテ懸出ラレケルヲ。清盛是ヲ見テ。有ヘ  
フモナシ。アレ制セヨ者トモ。爲朝カ弓勢ハ目ニ  
見ヘタル事ソカシ。アヤマチスナト宣ケレハ。兵  
トモ前ニ馳塞リケレハ。カナク。京極ヲ上リニ。春  
日表ノ門ヘソ寄ラレケル。

○半井本云。重盛是ヲ聞テ。何ト云ク伊藤五。爲朝  
カ矢ニ中マリテ見セント云モアヘス。只一人。門

ノ方ヘソ馳寄ケル。清盛是ヲ見テ。大炊御門ノ  
西門ヲハ。清盛攻セヨト宣旨ヲ蒙タル事モナ  
シ。何トモナク寄ル程ニ。暗キ紛レニ不祥ニテ  
コソ。此門ヘハ寄當リタレ。若黨失テ無益也。重  
盛ニ目放ツナトテ。雜色共ノ中ニ取籠テ守リ  
ケリ。東ノ門ヘカ北ノ門ヘカ參ルヘキソト宣  
ケレハ。即等トモ申ケルハ。東ノ門ハ此門近ク  
候ヘハ。同者ヤ固タルラントソ申ケル。其時安  
藝守宣ケルハ。引退テ京極ヲ廻テ。春日面ノ門

ヘ寄ヘシトテ。三條ヲ東ヘ引退云ケ。

○京師本杉原本竝云。爰ニ安藝守。大炊御門西ノ  
門ヘ押寄テ。此門ヲ固タルハ源氏カ平氏カ。角  
申ハ安藝守平清盛。宣旨ヲ承テ。此陣ニ罷向候  
ト高ラカニ名乗ケレハ。ハ即是ヲ聞テ取アヘ  
ス申ケルハ。院宣ヲ承テ此陣ヲ固タルハ。鎮西  
藏人爲朝ナリ。安藝守此陣ヘ向ハレ候コソ幸  
ナレ。ヤカテ見參ニ入ヘシト申ケレハ。清盛是  
ヲ聞テ小音ニ成テ。スサマシキ者ノ固タル物

哉トテ。以外周章騷テ。進得ス控タル所ヲ見テ。  
伊藤武者景綱。三十騎許ヲ相具シ門近ク進寄  
テ。是ハ伊勢國住人古市伊藤武者景綱子息伊  
藤五伊藤六。今日ノ軍ノ先陣ソト名乗ケレハ。  
為朝件ノ大弓ニ。サキ細ノ矢ヲ打番ヒテ。平氏  
カ即等サシモノ者ニテハヨモアラシ。此矢ヲ  
射ニスルハ彼カ為ニハ惜キ物哉ト宣ケレハ。  
須藤九郎申ケルハ。清盛カ即等ニハ。是等コソ  
宗徒ノ者ニテ候ヘ。疾アソハシ候ヘト申ケレ

ハ。去ハ軍神ニ祭ラントテ暫弓ヲ引持表ニ進  
タル伊藤六カ真中ニ押當テ發干タリ。ナシカ  
ハハツルヘキ。鎧ノ引合ヨリ後ヘツト射拔テ。  
次ニ控タル伊藤五カ射向ノ袖ニ。裏カイテコ  
ソ射出シタレ。伊藤六一タマリモタマラス。馬  
ヨリ倒ニトウト落レハ。兄ノ伊藤五。人手ニカ  
ケシトヤ思ヒケシ。馬ヨリ飛テ下リ第カ首ヲ  
取。景綱是ヲ見テ。急キ引返シテ。清盛ノ御前ニ  
參テ申ケルハ。宍怖シノ鎮西八郎殿ノ弓勢ヤ

候。伊藤六矢場ニ射落サレテ候。彼者ハ鎧ヲ重  
テ著候ツル。二領ノ具足ヲ射徹ス夕ニモ。イカ  
メシト覺候ニ。伊藤五カ鎧ノ袖裏カイテ候。加  
様ニ候ハンニハ。如何ナル鎧ヲ著テ。此門ニハ  
向候ハンスルツ。如何様鎧ヲ十領モ重テ著サ  
ランヨリ外ハ。叶フヘシトモ覺候ハス。命アリ  
テコソ軍ヲモ仕候ハンスレ。宍スサマシノ人  
ノ勢候ヤト申ケレハ。兵共是ヲ聞。舌ヲ振テ怖  
アヘリ。清盛何條サル事有ヘキ。但矢ツキハヤ

ニテ。二ノ矢ヲモ射タルラン。彼者カ祖父ハ幡太  
郎義家。貞任追討ノ時。將軍三郎武則カ勸ニ依  
テ。カナマセノ鎧三領ヲ。木ノ枝ニカケテ射徹  
シタリシソカシ。正シキ其孫ナレハ。サル事モ  
ヤ有ラン。此ハ郎カ子勢ノ事ハ聞及タリ。必シ  
モ此門ヘ向ヘト云宣旨ヲ蒙リタル事モナシ。  
唯暗紛レニ寄ツル程ニ。此門ニ寄ツルニテコ  
ソアレ。去ハ餘ノ門ヘヤ向フヘキ。又東ノ門ヘ  
ヤ向フヘキト宣ケレハ。物ノ恥ハチヲモ知タルモ

ノハ音モセス。怖アヘル者ハ尤然ルヘシト覺候。但東ノ門モ此門近ク候ヘハ。同人カ固テヤ候ラン。北ノ門ナトヘモ向ヒ給フヘキヤラントロケニ申ケレハ。取テ返サントスル處ニ。重盛口惜キ事ヲモ仰候物カナ。合戰ノ庭ニ出テ敵ノ強ケレハトテ引退クニ於テハ。軍ノ勝負爭カ有ヘキ。重盛ニ於テハ。八郎カ矢サキヲ一防キ防カント思切タリ。爰ニ骸ヲ暴スヘシトテ進ケリ。其出立ハ。赤地錦直垂ニ。サカヲモタ

カノ鎧ノ蝶丸ノスツカナ物シケク打タルカ。白覆輪カケタルニ。白星ノ塊紅ノ纒マツフクヲニカケテ。鶉毛ナル馬ニ。鑄懸地ノ黃覆輪ノ鞍置テツ乗タリケル。重盛名乗ケルハ。桓武天皇十三代後胤。平將軍貞盛末葉。安藝守清盛嫡子。中務少輔重盛。生年十九歲。軍ハ是カ始ナリ。聞ユル鎮西八郎殿ニ見參申サント。高ラカニ名乗ケルヲ安藝守大ニ騷キテ。アフナシヤ殿。八郎カ矢サキニハ。鐵ノ楯ヲツキテモ叶フヘ

カラス。若キ者ナレハ思慮ナクテツハヤルラ  
ン。各馬ノ前ニ馳塞テアヤマチサスルナ。アレ  
ヨクト宣ケレハ。郎等トモ馳寄馳寄。左右ノミ  
ツ、キ<sup>全カヒ</sup>鞞ニ取附テ。真中ニ取籠ケレハ。心ハカ  
リ早レトモ。爰ヲハオシテ引退。云々。此下至段  
尾又異。別出于下。

爰ニ安藝守郎等ニ。伊勢國住人<sup>伊勢據諸本。當作伊賀。今</sup>  
山田小三郎伊行ト云ハ。又ナキ剛者。カ夕  
カハ破リノ野猪武者ナルカ。

○半井本云。山田進出テ申ケルハ。若殿原ニ申ヘ  
キ事候。暫御馬ヲ駐<sup>トメ</sup>物御覽候へ。筑紫八郎ノ矢  
ニ中リ。後代ニ名ヲ留テ物語ニモセシ。八郎殿  
ノ矢ナランカラニ。鎧武者二人ヲハ通ラシ。矢  
ツキ早クテ暗サハ暗シ。二ツヲ一ツトコソ見  
タラメ。縦<sup>タビ</sup>二人ヲ通ストモ。是行カ鎧ハヨモ通  
ラシ。云々。<sup>京師本。杉原本。山田始末。與</sup>  
大將軍ノ引給フヲ見テ。サレハトテ矢一筋ニ恐  
テ。向タル陣ヲ引事ヤアル。縦<sup>タビ</sup>筑紫八郎殿ノ矢ナ



リトモ。伊行カ鎧ハヨモ徹ラシ。五代半井本傳作三代傳へテ。軍ニ逢事十五箇度。此下半井本別出于下。我手ニ取テモ。度々多クノ矢トモヲ受シカト。イマタ裏ヲハカカヌ物ヲ。人々見給へ。八郎殿ノ矢一ツ受テ。物語ニセントテ懸出レハ。ヲコノ高名ハセヌニシカス。無益也ト同僚トモ制スレトモ。本ヨリ云ツル言葉ヲカヘサヌ男ニテ。夜明テ後ニ傍輩ノ。八郎ノイテ矢目見ントイハンニハ。何トカ其時答フヘキ。然レハ日ヒ來ヨノ高名モ。失ナシ事ノ無念ナレ

ハ。ヨシク人ハ續カストモ。已證人ニ立ヘシトテ。下人一人相具シテ。同僚共々思ハシ事ハ○半井本云。是行モ三度ハ此鎧ヲ著テ。多クノ矢ヲ受タレトモ。一ツモ裏ヲカ、ス。アキ間ヲ射ラレテ死スルハ。自業自得果也。物見テワセヨト云ヘトモ。聞入人モナシ。適モ一騎モヒカヘス皆引ケレハ。是行許只一人ソ引ヘタル。安藝守ニハ召仕ルレトモ。御恩ナケレハ乗替一騎モ具セス。冠者原タニモ具セサリケリ。山立海

賊ノ訴詔ハ。無實力實犯カ。ツレヲメニセラル  
ルヲ以御恩ニシタリ。郎等トモナク。舍人トモ  
ナク。馬ノ口ニ附タル一人ソ有ケルニ向テ云  
ケルハ。已ヲ年來召使フ情ハ只今ニテアルツ  
心ノハヤリノマ、ニ。守殿ノ御前ニテ詞ヲ放  
チテ申ツ。男ノ云ツル事思ヒ返ス様ヤハアル  
ニ。仕出シタル事モナクテ歸タラハ。守殿ノ思  
召處ハサル事ニテ。同僚共カ思ハシ事ノ愧シ  
ハサユ。八郎ニハ何クヲ射サセタリシツ。イテ矢

目見ニト云シヲリハ如何セン。人有ハ蒐フ。人  
ナクハカケシト思ヒケルカト問様ニ云レナ  
ハ。年來日來ノ高名モ。何事ニテモ有マシ。死タ  
ラハ骸ヲモ堀瘞ニ。妻子ニモ子細ヲモ語レ。生  
タラハ後ノ證人ニモタテ。人モナキニト云ケ  
レハ。下人様々ニ諫ケレトモ更ニモ千井ス。馬  
ノ鼻ヲ引返シテ。門ノ前へ歩マセ行。安藝守ノ  
内ニハ。弓矢取ニハ許サレタル。強弓精兵ノ者  
也。十三束ニ伏ヲノ射ケル。云々。

黒草威ノ鎧ニ黒草半井同毛ノ五枚半井本堯猪頭ニ著十八差タル染羽ノ矢負塗籠藤ノ弓

持半井本云黒ホ口ノ矢鹿毛ナル馬ニ黒鞍置テ

乘タリケリ。

○半井本云八郎殿ノ弓勢イカメシト云トモ是

行カ小矢ツカヲ前様ニ進ラセ懸タランニハ

運クラヘニテコソアラニスレ弓矢取者ノ合

戦ノ場ニ出テ死スルハ勿論也生テ歸ルコソ

不思議ナレトツフヤキテ門前ニソ歩マセ寄

舍人男申ケルハ年來ノ御情ハサル事ニテ實

ニ兵ノ合戦ノ場ニ出テ生テ歸ルヘシトヤ

思フヘキ下臈ナレハ證人ニ立ナント仰ラレ

候カ口惜候者哉何クマテモ御供スヘシ又生

タリ共從者ヲ證人ニ立給ハ叶フヘキ事カ

先某命ヲ捨テ見セ奉ラント云テ長刀ヲ打振

八郎殿ノ下部ノ中へ走入其後ハ又モ見ヘス

是ヲ見テ是行殊更思切テ指アラハレテ申ケ

ルハ是行其人柄ニテ候ハ子ハ音ニハヨモ聞

シ召候ハシ。今日始テ見參ニ入ヘシ。是ハ安藝守郎等云々。

門前ニ馬ヲ懸居<sup>カケス</sup>物ヲノ者ニハアラチトモ。安藝

守郎等伊賀國住人山田小三郎伊行。生年二十八。

堀河院御宇嘉承三年<sup>乃鳥羽帝</sup>正月二十六日<sup>天仁元年</sup>。

二十<sup>字</sup>據中右記。古事談等義親堀河帝康和中坐<sup>行</sup>

事流<sup>隱岐</sup>而留<sup>于</sup>出雲劫<sup>畧</sup>人民<sup>侵奪</sup>官物<sup>因使</sup>平

正盛<sup>討之</sup>嘉承三年正月六日誅<sup>殺</sup>對馬守義親<sup>源</sup>

之二十九日正盛齋義親首歸<sup>京</sup>家追討ノ時故備前守殿<sup>正盛平</sup>ノ真先懸テ公家

ニモ知レ奉リ<sup>堀河院以下至此半井本不載而</sup>

帝王ニ奉リ山田庄司行末カ孫也<sup>行末半井山賊</sup>

強盜ヲ擲取事ハ數ヲ知ス合戰ノ場ニモ度々<sup>井半</sup>

本作ニ及テ高名仕タル者ソカシ<sup>半井本云高キ</sup>

ルモ若キモ<sup>弓矢取テヨキソカシ</sup>心モ剛ナルソ

カシト聞ユルハ互ニユカシキ事ニテコソ候ヘ<sup>半井本云</sup>

云承及八郎御曹司ヲ一日見奉ラハヤ<sup>御矢一ツ</sup>

給テ死ナハ後生ノ訴生ハ現世ノ名ト申ケレハ<sup>ト</sup>

譽ニ仕ルヘシト存テ參タリ云々<sup>ト</sup>朝家季ヲ招

為朝一定キヤツハ引儲テソ云ラン<sup>半井本云為</sup>

テ如<sup>何</sup>セシ定テ引<sup>散</sup>テ待ラン<sup>為</sup>朝程ノ者ヲ取

テ懸ハ<sup>手</sup>本ノ覺ユル者ニテ音ニ附テ内堀ヲ子

ラウラン<sup>一</sup>ノ矢ヲハ射サセンス<sup>二</sup>ノ矢ヲ番

ハニ所ヲ射落サニス。同ハ矢ノタマラン所ヲ我  
 弓勢ヲ敵ニ見セント宣テ。半井本云。家季能候ナ  
 ノ直垂ニ。唐綾威ノ鎧。龍頭ノ兜。長覆輪ノ太刀ハ  
 キ。山鳥ノ尾ノ藤ノ皮ニテハキタル矢。二十四指  
 タル。前一ツハ射タリ。節卷ノ弓。白蘆毛ナル馬  
 握リフトニテ八尺五寸ヲ持云々。金覆輪ノ鞍置  
 ニ半井本云。七寸ニハツレテ太ク。云々。金覆輪ノ鞍置  
 暹シク尾髪極テ卓散ナル云々。テ乘タリケルカ。懸出テ。鎮西八郎此ニ在ト名乘  
 給フ所ヲ本ヨリ引儲タル箭ナレハ。弦音高く切  
 テ發ツ。御曹司ノ弓手ノ草摺ヲ縫様ニツ射切タ  
 ル。半井本。此。以下。一ノ矢ヲ射損シテ。二ノ矢ヲ番フ  
 下別出下。

所ヲ爲朝能引テ兵ト射ル。山田小三郎カ鞍ノ前  
 輪ヨリ。鎧ノ草摺ヲ尻輪懸テ。矢サキ三寸餘ヲ射  
 通シタル。暫ハ矢ニカセカレテ。タマル様ニツ見  
 ヘシ。即弓手ノ方へ真倒ニ落レハ。矢尻ハ鞍ニ留  
 リテ。馬ハ河原へ馳行ハ。

○半井本云。御曹司ノ弓手ノ草摺。縫様ニシタ、  
 カニコソ徹タル。詞ニ合テハシタナク射タリ。  
 サレハコソト思ヒ。例ノサキ細ノ矢ヲ打番テ。  
 巴カ詞ノヤサシケレハ矢一ツトラセシ。此矢

ヲ賜リナン後ハ。生ル事ハヨモアラシ。後生ノ  
訴ニセヨトテ引テ發ス。是行カ鞍ノ前輪ハタ  
ト射破テ。草摺ノタ、ナハリタルヲ射徹シ。主  
ヲ射拔テ。尻輪ニ射附タリ。是行ハ一ノ矢射損  
シテ。口惜クヤ思ヒケン。急キ二ノ矢ヲ打クワ  
セテ。打揚打揚二三度シケルカ。正念次第ニ迷  
ヒケレハ。弓矢ヲ捨テトウト落ツ。矢ニ荷ハレ  
テ暫懸タリケルカ。矢ノ中折テ落ニケリ。馬ハ  
西ノ川原へ馳出タリ。云云。此下。半井  
本不載。

下入ツト馳寄。主ヲ肩ニ引懸テ。御方ノ陣へソ歸  
ケル。寄手ノ兵是ヲ見テ。彌イマ此門へ向フ者ユツナ  
カリケレ。

○京師本杉原本竝云。爰ニ伊賀國住人。山田小三  
郎惟行ト云アラ者アリ。進出テ申ケルハ。警守  
殿引退給フトモ。惟行ハ罷留テ。八郎殿ノ大矢  
ヲ受テ見ント存候。暫ク馬ヲ控テ御覽セヨカ  
シ。人々ノ聞臆シツマシマスラン。サスカニ爭  
カ鎧武者二人ヲハ射徹シ給フヘキ。譬タトヘ又サル

事アリトモ。惟行カ鎧ヲハヨモ徹シ給ハシ。惟  
行マテハ此鎧三代京師本云。惟行  
モ三度云々。マテ軍ニ逢  
トイヘトモ。一度モ裏カ、ス。透間ヲ射ラレテ  
死ナン事ハカナシ。其殿ノ弓勢イカメシト云  
トモ。惟行カ小矢ツカヲ。サキタテ、内堦へ射  
入ナン後ハ。運クラヘニテツアラン。且ハ鎧ノ  
札サヲモタメシ。且ハ後代ノ物語ニモスヘシ。人  
人證人ニ立テ物ヲ見給ヘト。主ヲ恥シムル様  
ニノ、シレトモ。誰カハ耳ニモ聞入ヘキ。吾先

ニト引退。惟行カ及ハスシテ。唯一騎スユクト  
ツ控タル。身ノ分限ナカリケレハ。乗替マテハ  
思ヒモ寄ス。ハカクシキ徒立ノ一人ヲタニモ  
具セサリケリ。僅ニ馬ノ口ニ附タル舍人一人  
ツ在ケル。心ノハヤルマ、ニ怒ナニキナル事ハ云散  
シツ。伴フ者ハ一人モナシ。サレハトテ又退ヘ  
キニモアラス。明日劊キノ實檢軍評定ノアラシ  
スルニ。山田ガ。八郎殿ニ射ラレタリケル矢メ  
ハ何クツ。鎧ハ堪コヘケルカ。口ニハ似サリケリ

ナト、云レニ時ハ。何トカ答フヘキ。偕ハ討死スル  
ヨリ外ハナシトテ。アヒ近ク向ヒケルカ。舍人男ニ  
云ケルハ。如何已<sup>オレ</sup>。年來從ヒ仕ヘテ。差タル思出  
モナクテヤミナン事コソ不便ナレ。サレトモ  
前世ノ宿習トテ。主トナリ郎等ト成テ。カ、ル  
最期ニテ附副ニトハリ又ルコソ嬉<sup>ウレ</sup>シケレ。惟  
行カ詞ハ汝モ聞ツラン。今取テ返サント思フ  
トモ叶フマシ。八郎殿ノ矢ニアタリテ死ナン  
事一定ナリ。但弓矢トル者ノ懸ル事ニ逢ハ願

フ所ノ幸也。生タリトモ死タリトモ。勲功ハ定  
テアラニスルツ。其時ハ汝カ世ニテコソアラ  
ンスレ。死タラハ恥ヲモカクシ。千萬ニ一ツモ  
生タラハ。奉公ノ者ト思知ニスルツ。軍ノ證人  
ニ立テ。惟行カ最期ノ有様。後ニ物語セヨト云  
ケレハ。彼者ハ主ニモ劣ラヌ剛者ニテ。弓矢ヲ  
トリ給フ人ニツカヘ申者ノカ、ル事ニ逢ヘ  
シトハ。兼テ存知仕候者ヲ。主ノ討死シ給フヲ  
見捨。某生留リテ何ノ詮カ候ヘキ。殿ノ討死ハ。



先某死テ後ノ御事ナルヘシ。家人ヲ證人ニ立  
給ヒタラハ。人豈證人ト思フヘキヤ。又勲功ノ  
事ハ。命生テノ上ノ事也。アラ徒事ヤトテ。長刀  
ヲ取直シテ。先ニ立テツ走ケル。惟行年二十八。  
大男ノシタ、カ者也。弓ハ三人張。矢束ハ十三  
束。サケ針ヲモ射ント思フ者也ケルカ。黒革威  
ノ大アラメノ鎧著テ。黒羽ノ矢負。二所藤ノ弓  
持テ。鹿毛ナル馬ノ太ク逞シキニ。黒鞍置テツ  
乗タリケル。門近ク打寄テ名乗ケルハ。鈴鹿山

ノ立烏帽子ヲ搦捕テ奉リ。帝王ノ見參ニ入タ  
リシ。山田庄司行秀與本書及半井本異。可并見。後胤伊賀國  
住人山田小太郎惟重カ嫡子。小三郎惟行ト云  
者也。京師本云。安藝守ハ。聊仔細ニ依テ引退レ候ヘトモ云ケ。承及鎮西八  
郎殿ニ見參申サシ為ニ。此門ニ罷向タリ。京師本云。  
身モシタ、カニ心モ剛ニ。弓矢取テモ能敵ト聞テハ。互ニ床シキ事ニテ候云ケ。何カ  
苦シク候ヘキ。中差一ツ賜テ。今生ノ面目。後生  
ノ思出ニ仕ラント。高ラカニ訶ケレハ。此下。為朝惟行。  
問答本。書為。為朝。景綱。問答。可并見。為朝コハ如何ニ。巴カ主ノ清

盛シタニ。不足ノ敵ト思フ者ヲ。清盛此陣ヲ引  
退モ理也。平氏ハ桓武ノ後胤トハイヘトモ。王  
孫遙ニ隔リヌ。源氏ハ。清和ノ後胤。為朝マテハ  
正シキ九代也。全ク汝カ向フヘキ門ニハアラ  
ス。疾々引退ケト宣ケレハ。惟行。是ハ御曹司ノ  
御諚トモ覺候ハヌ者哉。昔ヨリ源平兩家。鳥ノ  
左右ノ翅ノ如クニテ。共ニ朝家ノ御守ナリ。然  
ルニ源氏世ヲ亂セハ。平氏是ヲ鎮メ。平家朝家  
ヲ皆ク時ハ。源氏是ヲ平ク。平氏ノ郎等ノ射ル

矢。源氏ノ御身ニ立ヌ様ヤ候。今コソ御覽セラ  
レ候ハメトテ。唯進ニソ進ケル。為朝ニクキ奴  
カ詞哉。其義ナラハ。只一矢ニ射殺シテ捨ント  
テ。例ノサキ細ノ矢ヲ打番テ。既ニ引ントシ給  
ヒケルカ。是程騷カヌ奴ナレハ。定テ弓ヲ引儲。  
為朝カ内兜ヲ射ントソチラフラン。相引レテ  
透間射ラレテ叶フマニ。一ノ矢ヲ射サセテ心  
ヲ見ントテ。暫タメラヒ給ヒケル處ニ。案ノ如  
ク引儲タル事ナレハ。内兜ヲト心サシヒヤウ

ト射ル。為朝ノ鎧ノ障子ノ板ヲ。縫様ニシタ、  
 カニソ射閉タル。今少アケテ射タリセハ。頸ノ  
 骨何カタマールヘキ。其後為朝。弓矢トル者ハ角  
 コソアラマホシケレ。平氏カ郎等。今更心ニク  
 クコソ覺ユレ。為朝カ矢ハ惜ケレトモ。巴カ振  
 舞ノヤサシケレハトラスル也。今生ノ思出ハ  
 ナクトモ。後生ノ訴ニ仕レトテ少シ差サケテ。  
 馬ノ頭ニ推アテ發サレタリ。惟行カ鞍ノ前輪  
 ヲ射碎キ。京師本云。草摺ノタ、ナワ  
 リメヲ後ヘツト射抜。云云。矢サキ長

ニソ射出シタル。惟行ニノ矢ヲ番テ。ヒカンク  
 トシケルカ。心神忽ニクレ。正念次第ニ失シカ  
 ハ。弓矢ヲ捨馬ヨリ倒ニ落ケルカ。矢ニ荷ハレ  
 テ暫ク落ス。馬驚テ。彼方此方ヘ走ケル程ニ。カ  
 ナクリ落ニソ落ケル。餘リニ武者ノ剛ナルモ。  
 却テオコカマシク覺ケル。高間小三郎馬ヨリ  
 飛テ下リ。惟行カ首ヲ取テケリ。舍人男心得タ  
 リト云マ、ニ。長刀打振。敵ノ中ヘ走入。散ケニ  
 切テ廻リケレトモ。敵餘多ニ取籠ラレテ。終ニ

討レニケリ。其ヨリ後ハ此門へ向フ者コソナ  
カリケレ。云云。

白河殿攻落事

去程ニ夜モ漸明行ニ以上京師杉原半井三本不載而云義朝二條河原ニ控  
ヘタル所主モナキハナレ馬源氏ノ陣へ懸入タ  
リ。鎌田次郎是ヲ取セテ見ルニ。鞍壺ニ血タマリ。  
前輪ハ破レテ。尻輪ニ鑿ノ如クナル矢尻留レリ。  
鞍壺以下至此京師杉原半井三本不載是ヲ大將軍ニ見セ奉リテ。今  
夜筑紫御曹司ノ遊サレテアリケニ候。穴イカメ

ニノ御弓勢ヤト申ケレハ。半井本云。義朝。前輪ヲ射破ルタニモ有難キニ。主ヲ射洞ニ尻輪ニ射附ヘキ様ヤア義朝。八郎  
ハ今年十八九ノ者ニテコソアレ。イマタカモカ  
タマラシ。ソレハ敵ヲオトサントク作テコソ放  
ケメ。ソレニハ臆スヘカラス。汝向テ一當アテ、  
見ヨト宣ヘハ。左承候トテ。正清百騎許ニテ押寄  
テ。下野守ノ郎等ニ。相模國住人。鎌田次郎正清ト  
名乗ケレハ。サテハ一家ノ郎從コサンナレ。大將  
軍ノ矢面ヲハ引退ケト宣ヘハ。本ハ一家ノ主君

ナレトモ。今ハ八逆ノ凶徒也。半井本云。正清ハ。副  
將軍ノ宣旨ヲ蒙タ  
リ。相傳ノ主ニ。郎等ノ矢立ヤ立ヌヤ試給ヘトテ。  
我詞果ナハ射ラレト思ヒ。一ノ矢ヲ發チケレ  
ハ。左ノ頬サキキ半頭ノ間ヲ射削リ。  
兎ノ手サキニ射ツケタリ。云々。違勅ノ人々討  
取テ。高名セヨヤ者共ト云モ果ス。能引テ發ツ矢  
カ。御曹司ノ半頭ニカラリト中リテ。兎ノシコロ  
ニ射附タリ。爲朝餘ニ腹ヲ立テ。此矢ヲカイカナ  
クリテ投捨。已程ノ者ヲハ矢タフナニ。手取ニセ  
ントテ懸給ヘハ。須藤九郎家未。惡七別當以下。例  
ノ二十八騎續キタル。正清叶ハシトヤ思ヒケニ。

百騎ノ勢ヲ引具シテ。川原ヲ下リニ五半井本  
作二。町  
許。フルヒク逃タリケリ。御曹司ハ弓ヲハ脇ニ搔カキ  
挾ミ。大手ヲヒロケテ。トコマテトコマテト追レ  
ケルカ。半井本云。寶莊嚴院ノ西ノ門迄攻懸タリ。  
返シモ合子ハ。御曹司馬打駢テ。若黨長追  
ナセフ。馬ノ氣ノ絶ルニ。又門モ覺束ナニ。サノ三  
押隔テレナハ門破レナニ。判官殿ハ。云々。サノ三  
長追ナセソ。判官殿ハ心コソ猛クオハシマセト  
モ。年老給ヒヌ。殘ノ人々ハ口ハキ、給ヘトモ。サ  
ノ三心ニクカラス。小勢ニテ門破ラルナ。返セヤ  
トテ引返ス。鎌田ハ河原ヲ西ヘ引ハ。大將軍ノ陣

東鑑卷之四十五

卷三

三十八

ノ前敵ノ追懸シモ惡カリナント思テ。半井本云。東河原ヲ  
 三町許。直下リニ逃タリケルカ。敵引返スト見テ  
 ケレハ。川ヲ直違ニ馳渡シテ。按此間文不連續。必  
 有脱文。當有錄田至  
義朝前云ケ、句。半井本云。下野守ノ前ニ馳參馬ヨ  
 リ飛テ下リ。堯ヲ脱高紐ニカケ。弓脇挾三。アエク  
 く申ケルハ。坂。遁參テ候。坂東ニテ多クノ軍ニ逢  
 東ニテ云々。  
 テ候ヘトモ。是程軍立ハケシキ敵ニイマタアハ  
 ス候。雷電ナトノ落懸ランハ。事ノ數ニモ候ハシ  
 ト申ケレハ。義朝ソレハ聞ユル者ト思テツツレ  
 ハコソハ。左有ラメ。八郎ハ筑紫生立ニテ。舟ノ中

ニテ速矢ヲ射。徒立ナトハ知ラス。馬上ノ業ハ坂  
 東武者ニハイカテ及ハシ。馳雙テ組ヤ者トモト  
 下知セラレケレハ。

○半井本云。義朝宣ケルハ。只正清カ思ヒナシソ。  
 八郎ハ今年十八ニ成ト覺ユ。セイハ大也トモ。  
 イマタ身ノカハツノルマシ。筑紫生立ノ者。速  
 矢ヲ射學ヒ。太刀遣フ様ハ知タルラン。徒立ハ  
 ヨクトモ。馬上ニテ押ナラヘテ組事ハ。武藏相  
 模ノ若黨ニハ争カ優ルヘキ。押ナラヘテ組テ

見ヨ者トモ。手本有テシキソト宣ヘハ。武藏相  
模ノハヤリオオノ若者共是ヲ聞スハク我等ヲ  
スカシ合殺サントシ給フハ。弓矢取テコソ能  
ラメ。打物遣フ事ハ筑紫ニ聞ユル肥後國住人  
ヲイテノ次郎大夫教高。九國一番ノモノ切也。  
ソレニ習テ師ニハ遙ニ超過シテオハスナル  
者ヲ。争<sup>イラヒ</sup>ニツノラストモ。彼程ノ勢氣體ニテ募  
タル我等ニハ似<sup>モシ</sup>ニシキソ。若<sup>モシ</sup>遠矢ニ射ハ。アキ  
間ニ中リテ射殺ス事ハ有トモ。打物遣ヒ組事

ハ叶フマシト。サ、ヤク色ヲ見テ。下野守エリ  
拔テ。相模若黨追ヤ追ヘトソ下知シタル。云云。  
相模國住人<sup>半井本載大場</sup>須藤刑部丞俊通。其子  
龍口俊綱。海老名源八季定。秦野次郎延景等ヲ始  
トシテ。二百餘騎ニテ追懸タリ。爲朝寶莊嚴院ノ  
西ウラニテ返シ合テ。火出ル程ノ戦タル。<sup>半井本</sup>  
後陣ニ控ヘテ<sup>云々。而無義朝</sup>鎧<sup>馬品</sup>。大將ハ赤地錦ノ直垂ニ。黒  
絲威ノ鎧ニ。鍬形打タル<sup>カサ</sup>塙ヲ著。黒馬ニ黒鞍置テ  
乗タリケリ。鎧踏張ツタチアカリ。大音揚テ。清和

天皇九代後胤下野守源義朝大將軍ノ敕命ヲ蒙  
テ罷向フ。若一家ノ氏族タラハ速ニ陣ヲ開テ退  
散スヘシ。若一家以下至此半井本不載トソ宣ケル。為朝聞モア  
ヘス。嚴親判官殿院宣ヲ蒙給ヒテ。御方ノ大將軍  
タル。其代官トシテ。鎮西八郎為朝。一陣ヲ承テ固  
タリトソ答ケル。義朝重テ偕ハ遙ノ弟コサシナ  
レ。汝兄ニ向テ弓引ニ事。冥加ナキニアラスヤ。且  
ハ宣旨ノ御使也。禮儀ヲ存セハ。弓ヲフセテ降參  
位。自且宣旨至此半井本不載トソ申サレケル。  
而云落ヨ助ケントソ云ケ

為朝又兄ニ向テ弓引ニカ冥加ナシトハ理ナリ。  
正ニ夕院宣ヲ蒙タル父ニ向テ。弓引給フハ如何  
ト申サレケレハ。義朝道理ニヤ詰ラレケシ。其後  
ハ音モセス。武藏相模ノハヤリヲノ者トモカ。驀  
地ニ打テ懸ルヲ。為朝暫支テ防ケルカ。敵ハ大勢  
也。懸隔ラレテハ判官ノ為惡カリナント思テ。門  
ノ内ヘ引退。敵是ヲ見テ。防兼テ引トヤ思ヒケン。  
勝ニ乘テ門ノ際迄攻附テ。入替入替モラタリケリ。  
武藏相模以下至此半井本不載。爰ニ為朝敵ノ勢コシニ見レハ。



半井本云。為朝ハ鎧踏ハリ弓杖ニ  
 スカリ。立アカリテ見レハ。云々。大將義朝。大ノ  
 男ノ大キナル馬ニハ乗タリ。人ニ勝レテ軍ノ下  
 知セシトテ。ツ立舉リタル内壘。誠ニ射ヨケニ見  
 へケレハ。願フ所ノ幸。得タリト悦テ。件ノ大矢ヲ  
 打番ヒ。半井本云。例ノサキ細ノ矢指  
 クハセ。打傾テ雲透ニ見云々。只一矢ニ射  
 落サシト打揚ケルカ。待シハシ。弓矢取身ノ謀。汝  
 ハ内ノ御方へ參レ。我ハ院方へ參ラン。汝負ハ憑  
 メ助ケン。我負ハ汝ヲ憑シテ約束シテ。父子立別  
 レテカオハスラン。半井本云。其上為朝ヲ幼少ヨ  
 リ。兄弟皆失テ。我一人世ニア

ラントスルエセ者トテ。久シク不孝ノ身ニテ有カ。  
 希ニユリテ上リ。親ノ怨ニモナク。兄ヲアヘナク  
 射殺シテ。重テ不孝セラト思案シテ。番タル矢ヲ  
 レハ如何アラシ云々。此。下半井本。都  
 指ハツス。遠慮ノ程コソ神妙ナレ。別。出于下  
 テハ郎ノ矢ニ中ル者。助カルモノソナカリケル。  
 サレハ罪造リトヤ思ハレケン。名乗テ出ル者ナ  
 ラテハ。左右ナク射給ハサリケリ。長井齋藤別當  
 真盛。第三郎真負。片桐小八郎大夫景重。須藤瀧口  
 以下宗徒ノ兵。攻入攻入戦ケレハ。惡七別當。手取  
 與次。高間三郎。同四郎。吉田太郎以下。爰ヲ前途ト

防キケリ。片桐八郎大夫ニ。手取與次ノ懸合ケル。與次ハ若武者也。景重ハ老武者ナルウヘ。戰疲テ色既ニアブナク見ヘケル所ヲ。秩父行成平武者秩父行弘子號武者五郎馳合テ。能引テハナツ矢ニ。與次カ妻手ノ草摺ノハツレヲ射サセテ引退ケハ。景重勝ニ乗テソ懸入ケル。都テ八郎矢云々至此。半井本甚異也。見于左。

○半井本云。爲朝暫支ヘテ戰ケルカ。味方ハ小勢也。東西ヨリ押隔ラレナハ門破レナントテ。三四段許引退テ控タリ。下野守勝ニ乗テ。攻ヨ攻

ヨ息ナクレツ。死チヤクトソ下知レタル。馬ヲハ棄。我モ我モト門ノキハニ近ツキテ戰フ兵トモ。大庭平太。同三郎。須藤刑部丞父子。海老名源八季貞。波多野次郎信景。後藤兵衛真基。信濃國住人敵小八郎大夫景重。敵當作。片桐。是等ハ人ニモ勝レテ。面ニ立テ見ヘタリ。其中ニ景重。門ヨリ西築地ノ犬走ニ打テ出。長刀脇挾テ立タリ。カタヘノ者トモ是ヲ見テ。古兵ナレハオソロシサヨ。軍モセテ休トコソ申ケレ。暫アリテ走

寄筑紫八郎ノツカセタル楯ヲ奪取。是ヲツキ  
テ軍セヨヤ殿原トテ投出シタリ。長刀ヲ取直  
シ。敵打拂テ引退。波多野申ケルハ鎌田カ一度  
軍ニタレハトテ。又モ見ヘヌカ悪ケレハ。物云  
テコフソ殿原。暫支給ヘトテ行テ見レハ。下野  
殿ノ後ニ。鎌田馬ニ乗ナカラ。弓杖ツキテフル  
ヘフルヘ控タリ。波多野申ケルハ。軍ハ一度懸  
タレハ又ハ懸ヌ事カ。鎌田殿。ナト向給ハヌツ  
ト申セトモ。鎌田ハモノモイハス。下野守宣ケ

ルハ。此程正清ハ瘡心地オハシケルカ。只今ウ  
コキ出タレハ。馬ニタマルヘシトモ覺スト云  
ナリ。時中許分タニ有ハ。能成ナンスト宣ヘハ。波  
多野哀宿取論ニ勝シニハ似ヌ物哉トテ笑ケ  
リ。波多野ハ歸ヌ。人トモニ申ケルハ。此程腹ノ  
フクレタリツル減減シタルソ。橋本宿ニテ信景  
カ札打タル宿ヲ。頭殿御宿近テ誰掌セウトテ  
取替タリシカ悪カリツレハ。只今云テ來ルソ  
トテ笑アヘリ。敵ヲハ。八郎殿ハ郎等ヲ以射サ

セタリ組セタリ戦ヘトモ。能敵ト名乗ラ又限  
ハ。矢ヲ惜テ射ス。義朝門前へ進出テ。八郎カテ  
勢如何程イカメシト云ナルソ。義朝試シト宣  
ケレハ。承ヌトテ。首藤九郎ヲ召。云々。

御曹司首藤九郎ヲ召テ。敵ハ大勢也。モシヤ多ツキ若矢種盡テ  
打物ニナラハ。一騎カ百騎ニ向フトモ終ニハ叶  
フマシ。坂東武者ノ習。大將軍ノ前ニテハ。親死子  
討ルレトモ顧ス。彌イカ上ニ死重リテ戦フトソ聞。  
半井本云。門破ラレナンス。他所ヨリハ破ルトモ。此ヲハ破ラセシト思フ也。大將軍ノ加様ニ攻寄

テ下知セシニハ。百騎カ一騎イサ、ラハ。大將ニ  
ニ成マテモ兵八止マシ。云々。

矢風負セラ。引退ケシト思フハ如何ト宣ヘハ。此

半井本別。家末。前作。家季。未。知。孰。是。然ルヘク候。但御誤候ハ

シト申ケレハ。何條サル事有ヘキ。為朝カ手本ハ  
覺ユル物ヲトテ例ノ大矢ヲ打番。固テ兵ト射ル。  
思ノ矢坪ヲ誤ラス。下野守ノ堯ノ星ヲ射削テ。餘  
ル矢カ寶莊嚴院ノ門ノホウタテニ。篋中セメテ  
ソ立タリケル。其時義朝手綱搔繰打向。汝ハ聞及  
ニモ似ス。無下ニ手コソアラケレト宣ヘハ。

○半井本云。家季。御アヤマチハシセサセ給ハン  
ト制止申セハ。為朝ヲハ手本アハラナル者ト  
思フカ。能程ニ射懸テ退ケ申サン。大將引ハ兵  
トモ引サルヘキカ。下野守門ニハ向ハテ向ノ  
頬ナル御室ノ門ノ西ヘヨリ。北ヘ向タルニ。ホ  
ウタテニ後ヲ當テ。良向ニ打立テ。弓杖ツイテ  
下知シケリ。八郎ハ御所ノ内。巽ノ方ヘ打寄テ。  
築垣ニ弓杖二杖許寄附立アカツテ。矢根能征  
矢ヲ打クワセテ。人ノ上越ニ能引テヒヤウト

射タリ。龍頭ニ鋏形打タル堯ノ星。七八カラリ  
ト射散シテ。後ナル御室ノ門ノホウタテノ板  
ニ。篋中過テツ射徹タル。下野守。目昏テ馬ヨリ  
落ントスルカ。鞍ノ前ツハ馬ノユカニニ取附  
テ。堯ヲ探レハ矢モ立サリケレハ。起揚リテ心  
地ヲ取直シ。ヘラヌ由ニモテナシテ八郎ハ聞  
ツルニハ似ス。手ユツアハラナリケレ。敵モ敵  
ニコソヨレ。義朝程ノ敵ヲ。惡ク仕者哉ト宣ケ  
レハ。云云。

爲朝兄ニテ渡ラセ給フ上存スル旨有テ角ハ仕  
候ヘトモ誠ニ御免ヲ蒙ラハ二ノ矢ヲ仕ラン真  
向カク内ウチ塊カクハ恐モ候障子ノ板カ梅檀弦走カ胸板ノ  
真中カ草摺ナラハ一板トモ二板トモ此下半井  
本出下  
矢坪ヤツヲ慥タカニ承テ仕ラントテ既ニ箭取テ番ハレ  
ケル所ニ上野國住人深巢七郎清國ツト懸寄ケ  
レハ爲朝是ヲ弓手ニ相受テハタト射ル清國カ  
塊ノ三板ヨリ直違スチカヒニ左小耳ノ根へ篋中許射込  
レタレハ暫モタマラス死ニケリ首藤九郎落合

テ深巢カ首ヲハ取テケリ是ヲモ事トモセス我  
先ニト懸ケル中ニ上野國以下至此半井本不出  
自段首至此京師本杉原本別  
出出下下于于

○半井本云一板トモ二板トモ矢坪ヲ定テ給リ  
候へ御前ニ候雜人等ノケラレ候ヘトテ打番  
テ引ヲ見テ下野守扉ノ陰へ打寄相摸ノ若黨  
何ノ料ニ命ヲ惜ヘキソ攻ヨ懸ヨト下知セラ  
レケレハ我劣オホシニト門脇ニ進寄内ヨリ矢サキ  
ヲ揃揃テ射ケレハ面ヲ向ヘキ様ナシ云々

○京師本杉原本竝云。下野守。二條河原ニ控ケル  
處ニ。惟行カ馬。陣中へ走入懸廻ケルヲ。鎌田捕  
へテ。義朝ノ前へ參リ。是御覽候へ。御曹司ノ矢  
ニテ射徹サレ候。平氏カ郎等ノ馬ト覺タリ。此  
鞍ヲ見候ニ。縦番匠カ鑿ニテウチ候トモ。ヤハ  
カ容易タヤスク是程ハ洞とらり候へキ。アライカメシノ御  
弓勢ヤトソ申ケル。下野守何條サル事アルへ  
キソ。義朝ヲ威サントテ。八郎其矢ヲハ謀ニ射  
タルラン。其冠者ハ。今年十七カ八カニコソナ

レ。鎮西ソタチノ者ナレハ。歩カ行立ハ定テ達者  
ニソ有ラン。馬上ニテノ達者ハ。武藏相摸ノ若  
者トモニハ。爭イカカ勝ルへキ。只置テ物ヲ見ヨ。八  
郎ニ於テハ。義朝相手ニ成テ。勝負ヲハ決セン  
トテ。打出懸ントシ給フ處ニ。鎌田。是コソ有ニ  
シキ御事ニテ候へ。大將ノ御懸候ハン事ハ千  
騎カ百騎ニ成。百騎カ十騎五騎ニ成候ハン時  
コソ候へケレト諫ケレトモ。猶ハヤリテ懸出  
ントシ給ヒケレハ。郎等足輕トモ四、五千人馬

ノ口。前後左右ニ附テ。鎌田先某罷向。事ノ體ヲ  
窺<sup>シ</sup>ヘシトテ。三十騎許ヲ相具シ。門近ク押寄テ。  
高ラカニ申ケルハ。此門ヲハ誰人ノ固給ヤラ  
シ。角申ハ。今日ノ大將軍下野守殿ノ御乳母子  
ニ。鎌田莊司政宗カ嫡子。鎌田次郎正清ト云者  
ニテ候。按正清父系圖所載。詢于本書第  
一卷官軍勢汰段。此所載無所見守殿ノ  
仰ヲ蒙リテ。先此門へ罷向候ト言ケレハ。為朝  
聞給。コサカシキ奴カ言葉哉。サテハ兄ノ郎等  
ニテコソアシナレ。此門ヲハ為朝カ固タルソ。

譬<sup>タ</sup>仰ヲ蒙リテ此門へ向タリトモ。爭カ相傳ノ  
主ニ向テ矢ヲハ發<sup>テ</sup>ツヘキ。下野殿向ハレタラ  
シ時。返事ヲハスヘシ。汝ニ對スヘキ為朝ニア  
ラス。狼藉也。疾々引退ケトツ宣ケル。正清アサ  
笑テ。誠ニ日來ハ相傳ノ主。今ハハ虐ノ凶徒ニ  
テマシマサスヤ。宣旨既ニ限アリ。此矢正清ア  
發ツニアラス。八幡大菩薩ノ發テ給フ御矢ナ  
ルヘシトテ。能引テヒヤウト射ル。為朝。鎌田ヲ  
見ントフリ仰<sup>テ</sup>キタル左ノ頗サキヲ射削テ。盛<sup>ク</sup>ノ



鉢附ノ板ニツ射箸タル。為朝餘リノチタサニ。  
 答ノ矢ヲ射ルニ及ハス。矢ヲ搔カナクリテ投チ  
 捨スツテ脇ニ挾鎌田メ餘スナ。手取與ニ。打手城  
 八ハナキカ杉原本與ニ、作與一。打懸ヨ懸ヨト  
 怒テ。妻手ヲ差上テ。手捕ニセシト追懸タリ。鎌  
 田取テ返シ。鞭チ銚シヲ合テ逃ケレハ。已ハトコ迄  
 トコマテ。アマスナモラ洩スナ。手捕ニシテ首子チ  
 キリ。ハザキニセシト追ケレハ。鎌田今シ最期  
 ト思テ。鞍ノ前輪ニオセシカ、リ。馬ノ息ノ有

ニ限ハト。東河原ヲ真下リニ。捨鞭打ノ逃テケ  
 ル。為朝二十八騎。鎌田三十騎。逃ルモ追モ爰ヲ  
 限ト。揉モミニ揉テ馳ケレハ。馬足音ハ。大山ノ崩多レ  
 カ、ルカ如ク也。為朝ノ怒レル聲ハ。雷ノ鳴落  
 ルニモ異ナラス。三町許追タレト。唯逃ニ逃延  
 ケレハ。子タサハ子タケレトモ。是ニ限ルマシ。  
 判官殿ハ老體ニテ。合戦思フ様ニモシ給ハシ。  
 兄ノ殿原ハ。口コソキ、給ヘトモ。ハカバカシキ  
 軍ハヨモシ給ハシ。サノミ長追シテ。却テ判官殿

ヲ敵ニ隔ラレテハ惡カリナントテ。取テ返シ給  
フ。鎌田ハ。河原ヲ西へ逃へカリケレトモ。八郎殿  
ヲ。下野殿ノ御陳ノ中へ引入ン事。アリカリナニ  
ト思ヒケレハ。アラヌ方へ逃ケルヲハ。思慮有者  
哉ト。敵モ御方モ感シアヘリ。鎌田希有ニ命助  
リテ逃延ケルカ。京極ヲ上リニ打廻リテ。下野  
殿ノ御前ニ馳來テ。息續イキツキ敢ス申ケルハ。正清大  
事ノ合戰共仕候へトモ。是程馬ノ足騷シキメ  
ニハ逢候ハス。此馬ハ隨分逸物ト存ツルカ。只

一所ニ躍ル心地ニテコソ候ツレ。御曹司。正清  
ニ一ノ矢ヲ射ラレ給。無念ニ思召。答ノ矢ヲハ  
遊ハシ候ハテ。手取ニシテ首子チ切捨ント。追  
懸給ヒツルハ。雷ノ堦ノ上へ落カ、ル心地シ  
テ。目モ昏魂クマタマモ消キ馬ヨリ落又へク候ツレトモ。  
運強ク候テ逃延助リ候アラ夥シノ御勢ヤト  
テ息ツキ居タリ。下野守宣ケルハ。兼テヨリハ  
郎ハ勢強キ者ト思ヒ。心臆シテク左様ニハ覺  
ツラン。如何様八郎ニ於テハ。義朝一當アテ、

見ニ。何程ノ事カ有ヘキトテ出ラレケルカ。  
抑今日ハ十一日寅刻也。東ハ日塞ノ方也。其上  
朝日向テ弓引ン事。便ナカルヘシ。疾方違セン  
トテ。京極ヲ下リニ。三條マテサカリ。河原ヲ東  
ヘ打渡シテ。北殿ヲハ北ニ見ナシ。東堤ヲ上リ  
ニ北ヲ差テリ向ケル。十一日云云。本、書出、  
于上、段、為、清、盛、所、為、アロ  
近ク打寄此門ヲ固ラレ候ハ誰人ノ。角申ハ下  
野守源義朝。宣旨ヲ蒙リ罷向候ト宣。八郎取敢  
ス。御為ニハ舍弟ナル鎮西八郎源為朝。院宣ヲ

承。此門ヲ固テ候ト申。義朝コハ如何。宣旨ニ依  
テ罷向タリ。急キ此陣ヲ引退候ヘカシ。爭カ救  
命ヲハ背クヘキ。又兄ニ向テ弓ヲ引ヘキ様ヤ  
アル。眞加ノ盡ニスルハ如何。八郎アサ笑。為朝  
兄ニ向テ弓引カ眞加ツキ候ハ。如何殿ハ。現  
在ノ父ニ向テ弓引レ候。又義朝ハ宣旨ニ從  
テ向タルト仰候ヘトモ。為朝ハ院宣ヲ蒙テ固  
候。院宣ト宣旨トハ。何レ甲乙カ候ト申ケレハ。  
義朝道理ニヤツマラレケン。其後ハ音モシ給

ハス。遙ニ見渡セハ。其間五段許ノ隔タルラン。  
馬上事カラ諸軍勢拔ンテ。哀大將軍ヤトツ  
見ヘシ。詞戰ニテ立スクシタルニ。夜ノホノホ  
ノト明ルニ隨テ。内堦白白ト見ユレハ。為朝哀  
射ヨケナル物哉。天ノ與ヘ給ヘル上ハ。只一矢  
ニ射落シ捨ント思ヒ。例サキ細ノ矢ヲ打番ヒ  
テ。打揚引ントシケルカ。マテシハシ。云云。此間頗與  
本書同。故畧之。ハケタル矢ヲ差ハツシ。又上矢ノ鏑ヲ  
ハケ替テ。須藤九郎ニ。是ヲ見ヨ。中差ニテ下野

殿ヲ射落シ奉ラント思ヘトモ。旁存スル旨ア  
レハ差置ナリ。劊ヲハツケ申サテ。矢風許ヲ引  
セ。膽ヲツフサセ申サントテ。拳高ニ差上。鏑ノ  
上マテ引懸テ發サレタリ。御所中ノ陣ノ内響  
渡テ。義朝ノ盔ノ星七八射削テ。遙ノ後ナル寶  
莊嚴院ノ門ノ扉ノ厚サ五六寸許アルヲカナ  
物加ヘテ。篋中過テツ立タリケル。鏑ハワレテ  
ハラリト落。兵共是ヲ見テ。身ヲ縮メテ膽ヲ消。  
下野守。目モ昏心モ亂テ。既ニ馬ヨリ落ヘカリ

後醍醐天皇御記

四三

ケルカ。鞍ノ前輪ヲ強ク押へ。鎧ヲ踏シツメテ  
弓杖ツキ。内兜ヲ探リマハスニ。血モ流レス劊  
モナシ。八郎ハ聞シニモ似又矢哉。サスカ義朝  
程ノ敵ヲ角ハ射ニスル物カ。此千ヤウニテハ。  
八龍ノ裏カ、セシ事ハヨモ叶ハシト打笑へ  
ハ。為朝サン候一ノ矢ニ於テハ。旁存スル仔細  
ニテ。ワサト仕候ハテ。式代申ニテ候。御鎧ヲハ  
八龍ト見申テ候。譬如何成御鎧ニテモ候へ。二  
ノ矢ニ於テハ申請ニスルニ候。矢坪ヲ指テ承

リ候ハン。真向御頸ノ骨ハ恐モ候。クツケイ。弦  
ハシリ障子ノ板。脇立ノ上。爰ヲ射ヨト承テ一  
矢仕候ハン。御前ノ雜人ヲ除ラレ候へトテ。件  
ノサキ細打番ヒ。手クス子引テソ控へタル。下  
野守。矢風ハ以ノ外ケハシフ。劊ノツカヌコソ  
不思議ナレ。此者ハ一定今度ハ助ケ置ジト思  
ハレケレハ。聞又様ニモテナシテ。寶莊嚴院ノ  
脇へ引退。武藏相摸ノ者トモ。懸出軍セヨヤト  
ソ下知セラレケル。此下大場事又大異  
別出下可并見

相摸國住人大庭平太景能。同三郎景親。真前ニ進  
 テ申ケルハ。八幡殿。後三年ノ合戦ニ。出羽國金澤  
 城ヲ攻給ヒシ時。十六歳ニシテ軍ノ真前懸。烏海  
 三郎按各。家任。安。左眼ヲ盪ノ鉢附ノ板ニ射附  
 ラレナカラ。左眼。奥州後三年記。作右。諸本有異同。並見于下。答ノ矢ヲ射  
 返シテ。其敵ヲ取シ。鎌倉權五郎景正カ末葉

○奥州後三年記云。相摸國住人。鎌倉權五郎景正  
 ト云者アリ。先祖ヨリ聞ヘ高キ兵ナリ。年僅十  
 六歳ニシテ。大軍ノ前ニ在テ。命ヲ捨テ戦フ間

ニ。征矢ニテ右ノ目ヲ射サセツ。今按。不載。首ヲ

射貫キテ。曾ノ鉢附ノ板ニ射附ラヌ。矢ヲ折カ

ケテ。答ノ矢ヲ射テ敵ヲ射取ツ。サテ後退キ歸

テ。曾ヲ脱テ。景正手負タリトテノケサマニ卧

ス。同國ノ兵三浦平太郎為次ト云者アリ。是モ

聞ヘ高キ者也。ツラヌキヲハキナカラ。景正カ

顔ヲ踏ヘテ矢ヲ拔ントス。景正卧ナカラ刀ヲ

拔テ。為次カ草摺ヲ取ヘテ。アケ様ニツカント

ス。為次驚テ。ユハ如何ナト角ハスルツト云。景

正云様。弓箭ニ中<sup>アスリ</sup>テ死スルハ兵ノ望所也。爭カ  
生ナカラ。足ニテツラヲ蹈ル、事ハアラン。シ  
カシ汝ヲ敵トシテ。我爰ニテ死ナント云。為次  
舌ヲマキテ云事ナシ。膝<sup>ヒサ</sup>ヲカ、メ顔ヲ押ヘテ  
矢ヲ拔ツ、多ノ人は是ヲ見聞。景正カ高名彌<sup>イマヒ</sup>雙ナ  
シ。云云。

大庭平太景義同三郎 本書漏景義以下五景親ト

ノ名乗タル。按<sup>ス</sup>系圖。景正或作景政。平景成子。而景

不<sup>一</sup>或作景成。子景正。景正。子景經。景經。子景忠。景

忠。子景義。景親。或作景成。弟景村。景村。子景明。景明

子景宗。景宗。子景義。景義。子景親。一書甚<sup>タ</sup>齷<sup>ク</sup>語<sup>ス</sup>。御曹

司是ヲ聞給ヒ。西國ノ者共ニハ。皆手ナミノ程ヲ

見セタレトモ。東國ノ兵ニハ今日始ノ軍也。征矢

ヲハ度々射タリシカ。鏑矢ニテ射ハヤト思ヒテ。

目九ツ指タル鏑ノ。メハシラニハ角ヲ立。風返シ

厚ククラセテ。金卷ニ朱差タルカ。普通ノ墓<sup>ヒキ</sup>目<sup>メ</sup>程

ナルニ。手先六寸シノキヲ立テ。前一寸ニハ。ミ子

ニモ办<sup>ハ</sup>ヲソ附タリケル。鏑ヨリ上十五東有ケル

ヲ取テ番ヒ。クサト引テ發サレタレハ。御所中ニ

響テ長鳴シ。五六段許ニ控ヘタル。大庭平太カ左ノ膝ヲ片手切ニフツト射切。馬ノ太腹カケス洞リケレハ。鏑ハ碎テ散ニケリ。馬ハ屏風ヲ倒ス如クカハト倒ルレハ。主ハ前ヘクアマサレケル。敵ニ首ヲ取レシト。弟ノ三郎馬ヨリ飛下。兄ヲ肩ニ引懸テ四五町許ヲ引タリケル

○京師本杉原本半井本竝云。其時大場平太同三郎懸出名乗ケルハ。半井本云。二人元ヨリ戰疲内へ喚テ懸入。御曹司ノ前ニ控ヘテ申ケルハ云々。御先祖ハ幡殿後三



年ノ御合戦ニ。半井本云。金澤ノ城鳥海城半井本作館ヲ落サレシ時。生年十六歳ニテ。右半井本作眼ヲ射サセテ。其矢ヲ拔スレテ。答ノ矢ニ敵ヲ射テ。名ヲ後代ニ揚。今ハ神トイハレタル。鎌倉權五郎景政ニ四代ノ末葉。四代半井本作。五代不載父名。大場莊司景房カ子。相摸國住人大場平太景義。同三郎景親トハ我等カ事ニテ候。御曹司九州ヨリ召具セラレ候侍共ノ中ニ。我ト思ハン人々名乗テ御出候へ。組テ勝負ヲ決セント云テツ



控へタル。御曹司以下至此半井本不載。而云為  
ニテハ汝等モ。為朝四代相傳。為朝須藤九郎ヲ  
ノ家人ト。サニ候ト申云々。  
召。此下半井本誠ニ東國ニ於テハ。是等コソ去  
異也。出下。者共ト聞及タレ。何レノ矢ニテカ射ニスルソ。  
為朝カサキ細ハ。物ノ透ル事ハ珍シカラス。且  
ハ弓勢ノ程ヲモ見センスルソ。鏑ニテ創口廣  
ク射殺サント思フハ如何ト宣ケレハ。尤然ル  
ヘク覺候ト申セハ。例ノ大鏑差番。為朝鎮西ニ  
居住シテ今迄各見知サリケルコソ無念ナレ。

是コソ為朝カ手ツカラハキ拵タル矢ヨ。手ナ  
ミノ程ヲ見ヨヤトテ。真先ニ進タル景義カ腰  
骨ヲ射切ント。少差サケテ推當ケル處ニ。如何  
シタリケン。馬相ノキニノキケレハ。推モチリ  
ケル條。堯ニカセウテ思フ様ニモ引レス。馬既  
ニキレ遠サカリケル間。カナク等閑ニ發チタ  
リ。景義カ妻手ノ膝節。片手切ニツト射切テ。鎧  
ノミツヲカ子。馬ノオリホ子五六枚サツトキ  
レテ。矢ハ後へ洞リテ大地ニ立。鏑ハワレテ此

方彼方へサツト散。馬ハ一働<sup>カ</sup>モ働<sup>カ</sup>カス。トウト  
伏。景義下タ、ントシケレトモ。膝フシ切レケ  
レハ。ウツフシニ落ケリ。景親ツトヨリ。肩ニ引  
懸テ出為朝馬ヲ立直<sup>タテ</sup>サントシ給ヒケル紛<sup>マ</sup>ニ。  
是ヲ知スシテ。矢ニモ中<sup>タ</sup>ラテ逃ケルト心得テ。  
不思議ノ事哉。此矢ノハツレケル事ヨ。日本ニ  
冥加ノ武者ヲ尋ルニ。大場平太ニ過タル者ヨ  
モアラシ。為朝物覺テヨリ以來。人馬ハ云ニ及  
ハス。鳥獸ニ至ルマテ。目ニ懸タル物ヲ射ハツ

シ、事イマタナシ。此馬ノ中<sup>マ</sup>リ様ヲ見ルニ。主  
ハヨモ死ナシ。彼者共ハ。東國ニ於テモ目恥敷  
者ソカシ。只今ノ矢ヲ射損ヌル事。定テ人々ニ  
語ラニ事。無念口惜キ事哉。トツフヤキ給ヒケ  
リ。景親ハ景義ヲ置ントテ。傍<sup>ワタリ</sup>ノ小家ノ戸ヲ敲<sup>タ</sup>  
ケトモアケス。カナクシテ爰ニヤ置マシ。彼ニ  
ヤ捨マシトシケルヲ。景義助ケハ能助ケヨト  
云間。河原マテ出。トアル小家ニ押入テ下<sup>オ</sup>シ置。  
我身ハ又軍ニ逢ントテ出ケルヲ。景義。景親カ

鎧ノ袖ヲ控ヘテ云様。ヤ殿。爰ハ軍場也。只今モ  
兵共馳來。落人有トテ引出サン時。足カ立ハユ  
ソ手合ヲモセメ。云甲斐ナキ奴原ニ。押ヘテ首  
ヲ捕レン事ノ口惜サヨ。且ハ家ノ名ヲ失ヒ。且  
ハ弓矢ノ瑕まニテモ有ソカシ。我等カ舉動ノ様  
ヲハ。下野殿モ親ミカタリ御覽ニツル事ナレハ。臆病  
ニテ出ヌトハヨモ思召レシ。能ク助給ヘト云  
ケレハ。景親。此程シモ兄弟中不快也ケル間。此  
京師本説詳也。見于下。此詞ヲ用スレテ罷出ナハ。兄ノ恨

死後ニテモ殘ルヘシト思ヒケレハ。實モ御理  
也。他人ハ誰カ助申ヘキ。サラハ餘所ヘツレ參  
候ヘシトテ。又搔負テソ出ニケル。京白河モ合  
戰ノ最中ニテ。置ヘキ所モナケレハ。山科ノ邊  
ニトアル在家ヘツレ行テ預置。則走歸テ。其夜  
ノ軍ニ逢ケルヲ。譽ホト又人コソナカリケレ。云云。  
○半井本云。為朝。家季ヲ招。坂東ノ者ニ手ナシ見  
スル事ハ是カ始ソ。征矢トカリ矢ノ物ヲ徹ス  
ハ常ノ事也。キヤツ原ヲ墓目ニテ射ハヤト思

フハ如何。左候ナント申。征矢ヲモ能<sup>ヨキ</sup>羽ニテハ  
ハカサリケリ。増テ野矢ハ。晴ノアラハコソ能  
羽ニテモハカメ。夜晝朝夕ノ狩ナレハ。昨日ハ  
イタルハ。今日ノ狩ニ射損ス。今日ハ夕矢ハ明  
日狩ノ料。常ノ狩ナレハ。篋モ羽モコラヘサリ  
ケレハ。鷄ノ羽モ鳥ノ羽モ。ハキ附クハキケル  
カ。京へ上リテ後。軍アルヘシト聞テ。鏑ノ射々  
キ事モコソアレ。野矢一腰尋常ニハクト云條。  
例ノ三年竹ノ節<sup>ニホ</sup>近<sup>ホカ</sup>ナルヲ。節計コソケテ洗モ

セス。結構シタル條。鶴ノ下白ヲ。藤ハキニツハ  
キタリケル。鏑ハ<sup>ホウキ</sup>朴ノ生木ヲ。一昨日切寄タル  
ヲカ井ソイテ。手々ニクレトテクラセタル。人  
ノ暮目ト云ヨリモ猶八寸長ク。大ニ目九<sup>ツ</sup>サシ  
テ。目柱ニハ角ヲソシケル。カ子卷ニ漆一ハケ。  
夜部指タルカ能モヒヌニ。手サキ六寸。口六寸。  
ナイハ八寸ノ大鴈<sup>カリ</sup>股<sup>ミダ</sup>ヲ子チスケテ。ミ子ニモ  
能程<sup>ハ</sup>カヲ附タレハ。小キ手<sup>テ</sup>銚<sup>ホコ</sup>ヲニツ打違ヘタ  
ル様也。筈ヨリ下ナカラヨリ上。十束子タケニ。

鐙ノ上ヘカラト引懸テ。腰ノ骨射切ト。ヒヤウ  
ト放タリケレハ。長鳴シテ御所中ヲ響ク。五六  
段許ニ控ヘタル景義カ。膝節ヲ片手切ニ射切。  
鐙ノ力革チカラカニツツ皮。馬ノ折骨ニツツ射切。馬ノ  
腹ヲアチタヘ徹リテ。門柱ニソ立ニケル。鐙ハ  
此方ニ碎ケ散。馬ハ一足モ引ス。トウト倒。主モ  
下リ立ニトシケルカ。足折テ起レサリケル處  
ニ。内ヨリ首取トテ敵寄合。大庭三郎生年二十  
五。兄カ馬ニ敷レテ卧タルヲ見テ。走寄。馬ヲ押

除。兄ヲ引立ケレハ。片膝折タリ。肩ニ引懸門ヨ  
リ外ニ出。河原ヲ下リニ五六町引。河原ヨ下テ  
見返タレハ。敵追モ來サリケリ。下人一人モ見  
ヘ合ス。景親歸テ軍セント申セハ。景義弟カ鎧  
ノ袖ニ取附。是迄助タルニ扶遂ヨカシトテ。御  
曹司射給タル鐙モ雁股モ。指揚テ見セタリ。物  
具剥トテ者カ寄タランニモ。足カアラハコソ  
戰ハメ。物具モ剥レ。首モ取レナンス。守殿モ不  
覺ニテ逃タリトハヨモ宜ハシ。矢面ニ立テ軍

レツルモ。景義カ手負ツルモ見給ツラニ。助ケ  
ニトテ肩ニ懸テ行トコソ見給ツラメ。臆病也  
トハヨモ宜ハシト云ケレハ。カ及ハス。景親兄  
ヲ肩ニ懸。京ノ方へ行ントスルモ。落人トテ打  
伏ラレナント思ヒ。白河邊ニ宿サント思ヘト  
モ。サル所モナケレハ。物具ニ就テ盗人アリト  
思ヒ。兄カ鎧モ重代也。我鎧モ命ニ替テ思ヒケ  
レハ。二領ノ鎧重着テ。兄カ命モ惜ケレハ。肩ニ  
懸テ。大炊御門川原ヨリシテ。二所ニコソ休タ

レ。山階ニ。下野殿ノ所領ナリケル所ニ置。歸テ  
又其日ノ軍ニハ逢ニケリ。八郎ハ敵射落シテ。  
アシタリト思テ申ケルハ。日本國ニ冥加武者  
ヲ尋ニハ。景義ニシカシ。為朝ソコハクノ者ヲ  
射ツレトモ。弓手ノ者ノ矢比ナルヲ。是程ニ射  
ハツシタル事コソ覺子。頭ニモアレ。トコニモ  
射懸ヨ。裏カ、又事ハアラシト思ヒタレハ。遙  
ニ下テ。膝口ノ程ヲ射ツルト覺ユル。馬ノ死様  
ニハ。主ハヨモ死セシトク宣ケル。云云。

○京師本云。兄弟中不快ナリケル間。今コソ落合  
處ヨト思ヒケレハ。殿ハ景親ヲハ。サセル咎トガア  
ヤマリモナケレトモ。不忠ノ者ソトテ。常ハフ  
シニシ給ヘトモ。實ノ時ハ景親コソ。カ、ルセ  
ンニモ逢奉レ。他人ハ誰カ助ケ奉ルヘキ。明暮  
コメ見セ給ヒツル事ハ如何。懲給ヒヌト云ケ  
レハ。景義オメくと成テ。ヨシヤ殿。日來ヒヨハトモ  
アレカクモアレ。自今以後。和殿ニ過タル奉公  
ノ人ヤハアルヘキ。何事也ト云トモ。宣フニコ

ソ從ハメト怠狀ヲシケレハ。サラハトテ又搔  
負テ出ニケリ。ソモ京中ニ置ント思ヘトモ。落  
人カトテ打ヤ殺サレン。白川ニヤオカマシト  
思ヘトモ。物具ニ目ヲ懸テ。盗人ヤ打伏ニスラ  
ントモ思ヒ。又兄カ鎧モ重代也。我著タルモ相  
傳ノ鎧也。命ニカヘテモ惜ク思ヒ。是ヲ又ケト  
イハニモ心モトナシ。兄モ弟モ鎧着ナカラ。大  
炊御門ヨリ。山科マテ行ケルニ。木幡山ニテ只  
二箇所ニソ休ケル。サウナク行着テ。或者ノ許

二預置即走歸其夜ノ戰ニ逢ケリ云云

○東鑑建久二年八月一日條云大庭平太景能於新造御亭獻盃酒云云景能語保元合戰事此間申云勇士之可用意者武具也就中可縮用者弓箭寸尺也鎮西八郎者吾朝無雙弓箭矢達者也然而案弓箭寸法過于其涯分歟其故者於大炊御門河原景能逢于八男弓箭手八男欲引弓箭景能潛以為貴客者自鎮西出給之間騎馬之時弓箭聊不在心歟景能於東國能馴馬也者則馳廻八男妻

手之時絳相違及于越弓之下可中于身之矢中膝訖不及此故實者忽可失命歟勇士只可達騎馬事也壯士等可留耳底老翁之說莫嘲哂云云常胤已下當座皆甘心又蒙御感仰云云

武藏國住人豐嶋四郎モ首藤九郎半井本作惡七別當而無丸太

郎鬼田ニ弓手ノ太股ヲ射サセ安房國住人丸太與三事

郎モ鬼田與三ニ脇立射サセテ引退半井本云武藏國住人

中條新五新六成田太郎箱田次郎奈良三郎岩上太郎別府次郎奈良以下至此半井本不載而云太事ノ手負テ引退玉井四郎入違惡



七別當ニ馬ノ腹射  
 ラレテ引退云々 玉井三郎以下入替入替攻戰  
 各分捕シ皆手負テ引退ク處ニ黑革威ノ鎧高角  
 打タル堯ヲ著糟毛ナル馬ニ乘惡七別當ト名乗  
 テ懸出夕リ玉井三郎以下海老名源八馳合テ戰至此半井本無  
 ケルカ草摺ノハツレヲ射サセテヒルム所ヲ半井  
本云相模國住人海老名源八八首藤九郎ニ弓手ノ腕當ノ餘リヲ射ラレ馬ヨリ落テ郎等ニ昇レノキニケリ云云而齋藤別當透間モナク懸寄夕不載此下齋藤一節  
 リ惡七別當太刀ヲ拔テ齋藤カ堯ノ鉢ヲ下ト打  
 ウタレナカラ實盛内堯へキツカキ上リニ打込

ケレハ誤タヌ惡七別當カ首ハ前ニワ落夕リケ  
 ル實盛此首ヲ取テ太刀ノサキニ貫キ指舉テ利  
 仁將軍鎮守府將軍 十七代後胤按以實盛為利仁  
矣據系圖諸本利仁子叙用其子吉信其子伊傳其子則光其子則重其子助宗其子實遠其子實直其子實盛自利仁凡九世也或叙用子無吉信直以伊傳作叙用子為八世未知孰是 武藏國住  
 人齋藤別當實盛生年三十一軍ヲ八角コソスレ  
 我ト思ハン人々ハ寄合ヤ寄合ヤトワ呼リケル  
武藏人豐嶋以下京師本杉原本並無 金子十郎ハ滋目結ノ直垂ニ  
 裾繩目ノ鎧著テ鹿毛ナル馬ニ黑鞍置テ乗タル

カ。矢種ハ皆射盡シテ。太刀ヲ拔テ真甲ニアテ。武藏國住人金子十郎家忠十九歳軍ハ今日ソ始ナル。御曹司ノ御内ニ。我ト思ハン兵ハ。出アヘヤトワ名乗タル。八郎宣ケルハ。惡ヒ剛者哉。我矢比ニ寄テ扣ヘタリ。只一矢ニ射落サント思ヘ共。餘リニ優シケレハ。誰カアルアレ提テ參レ。一目見シトアリシカハ。木蘭地ノ直垂ニ。紫葦腹卷著粟毛ナル馬ニ乗。高間四郎ト名乗テ。押雙テ組テ落。高間ハ。兄弟共ニ聞ユル大カナルヲ。家忠上ニ成テ。

押ヘテ首ヲカ、ントスル處ニ。高間三郎落重テ。弟ヲ討セシト。金子カ兜ヲ引仰ケ。首ヲカ、ントシケルヲ。下ナル敵ノ左右ノ手ヲ。膝ニテ敷ツメ。上ナル敵ノ弓手ノ草摺引揚寄返テ。柄モ拳モ徹レ徹レト三刀指テ。ヒルム所ニ下ナル敵ノ首ヲ取。太刀ノサキニ差揚テ。此比鬼神ト聞ヘ給フ。筑紫御曹司ノ御前ニテ。高間四郎兄弟ヲハ。家忠討取タリトツ呼リケル。家未是ヲ見テ。安カラス思ヒケレハ。射落サントテ追懸ケル處ヲ。八郎。イカ

ニ首藤。アタラ兵ヲ助テツケ。今度ノ軍ニ打勝ナ  
ハ。為朝為朝。本文作爲義。今依諸本改之。カ郎等ニセニスルツト

コソ宣ケレ。金子餘ニ剛ナレハ。軍神ニヤ守ラレ  
ケン。又無キ高名仕極テ。不思議命助リテ。大將迄

ツ譽ラレケル。以上金子家忠一節京師杉原半井本有異。見于下。

○京師本杉原本半井本竝云。武藏國住人金子十  
郎家忠。葦毛ナル馬ニ乘。黒皮威鎧著テ。紅ノ纒赤

ツツ懸タリケル。葦毛云云至此。半井本不載。生年十九歳。軍

ニ逢事ハ是ヲ初ナルトテ。京師本半井本云。テハ肩ニカケ云々。

太刀ヲ拔額ニアテ。為朝ノ陣中へ喚テ懸入。散

散ニ切テ廻ル。為朝是ヲ見テ。哀奴哀ハ大剛者哉。

爰ニテ彼ヲ射落シ。打捕タリトモ。多勢力捕籠

テ討タリトコソ云ニスレ。誰ニテモ馳出。敵ノ

見ン所ニテ。此者ヲ捕へ提テ參レト宣ケレハ。

高間四郎ト云者。陣中ヲ一町ハカリ馳ヌケ。推

雙組テ落ツ。高間ハ三十餘。大ノ男シタ、カ者

半井本云。大力。ナリ。金子ハ十九也。サレトモ暫ク組合  
ケルカ。如何ニタリケン。高間オメオメト下ニ

ナル。金子上ニ乗居テ。左右ノ袖ヲムスト踏ヘ  
 テ働カサス。首ヲ捕ントスル處ニ。兄ノ高間三  
 郎急キ馳來リ。半井本云。金子是ヲ見テ。急キ首ヲハ取ス。高間三郎ヲ待懸  
タリ。馬ヨリ飛テ下リ。後ヨリツト寄。半井本。無云々。  
 金子カ塊ノテヘニ手ヲ入。引仰ケテ首ヲ捕  
 ントスル處ニ。半井本云。首ノ骨強クテ働カス。云々。金子拔テ持  
 タル刀ナレハ。下ナル四郎カト、メヲ差カヘ  
 ス刀ニテ。下ナル云々。半井本無。三郎カ具足ノ草摺ノハ  
 ツレヨリ。京師本云。予手ノ草摺ヲ引寄。云々。上サマニ三刀刺テ。

エイヤツトツキノケタリ。大事ノ手ナレハ。矢  
 庭ニ二人ナカラ空シクナル。京師本云。大事ノ手ナレハ。ノケサ  
クニ倒レヌ。金子ツト立テ。起モ上ラセス首ヲ取。四郎ハ元ヨリト、メヲ刺レテ働カサリケルヲ。心静ニ首ヲ取。二人ノ首ヲ提ケ。云々。半井本云。三郎カ弓手ノ草摺。擧アケサマニ三刀刺ス。刺レテノケニ倒レヌ。金子。四郎カ首ヲ取。一人ニ手負セ死生ハ知ス。一人ノ首ヲ取。云々。  
 金子馬引寄打騎。半井本云。左ノ手ニ首指上テ。云々。大音揚テ。  
 家忠音ニ聞ヘ給フ御曹司ノ御前ニテ。宗徒ノ  
 侍二人打捕罷出候。敵モ味方モ是ヲ見ヨ。半井本云。未代ノ弓取家忠ヲ。例ニヒケヤ和殿原トテモ生ヘキ身ナラハコソ。急キタリトモ甲斐アラ

九郎云々。此下又異。出于下。昔モ今モタメシ  
 少ユソ候ラヌ。斯ル晴ノ軍シヲホセテ。後代ニ  
 名ヲ揚ニスル京師本云。名ヲ揚ニスル家忠ツ  
 出ニ。御曹司但高名ヲシタレハトテ急キハ武運ノ程コソ有難ク候ヘ。定テ  
 ノ御内云々。無念ニ人々思召候ヘ。御曹司ノ御内ニ。我ト  
 思ハン人々懸出。押竝テ組ヤ組ヤト訶リテ控  
 へタリ。首藤九郎半井本云。首藤九郎能引テ射  
 キヲ塞キ。ナ射ソ家季。千騎萬騎ノ中ニモ。カ、  
 ル兵ハ有カタ。為朝多ノ兵見ツレトモイマ  
 タ見ス。彼一人討タリトモ。軍ノ勝負。安カラヌ  
 アルヘキカ。此軍ニ打勝テ云々。下同。

事哉。高間兄弟打セヌルコソ無念ナレ。キヤツ  
 手捕ニ仕リ。中ニ提ケ參候ハントテ打出ルヲ。  
 為朝暫待候ヘ。此者一人打タレハトテ軍ノ勝  
 負アルヘキカ。例ノサキ細一ツテコソアラニ  
 スレ。射落サン事ハ安ケレ共。是程ノ剛者ヲ。ア  
 ヘナク失ハシ事情ナカルヘシ。其上為朝。此軍  
 ニ討勝ハ箇國ヲ管領セシ時。只今ノ不義ヲ赦  
 シテ召使ハニスル也。惜キ兵アタラ侍討ヘカ  
 ラストテ押止ラル。云云。

常陸國住人。中宮三郎。同國住人。關次郎。村山黨ニ  
ハ。山口六郎。仙波七郎。轡ヲ雙テ懸入レハ。三町礮  
紀平次大夫。大矢新三郎以下防キケルカ。新三郎  
ハ。仙波七郎ニ弓手ノ肩ヲキラレ。紀平次大夫ハ。  
山口六郎ニ右ノ腕打落サレテ引返ス。美濃國住  
人平野平太。同國住人吉野太郎ト名乗テ懸入ケ  
ル所ヲ御曹司件ノ大鎗ヲ以テニヤウト射給フ  
カ。高紐ニ弦ヤセカレケン。思フ矢坪ニ下リツ  
平野平太カ左ノ脇當ヲ射キラレテ。馬ノ太腹ア

ナタヘツト射通サルレハ。眞逆ニ倒レタリ。甲斐  
國住人鹽見五郎モ射殺サレ奉リケレハ。大將モ  
此等ヲ見給ヒテ。少攻アクンテヲ思ハレケル。  
人中宮以下至此。京師杉原  
半井本有異同。別出于左。  
○半井本云。金子黨ニ續ク者共。山口六郎仙波七  
郎也。御曹司ノ方ヨリハ。三町礮。紀平次大夫大  
矢新三郎。二人續キ落合テ切合ケリ。紀平次大  
夫ハ。山口六郎ニ。妻手ノ肩ヲキラレテ逃ニケ  
リ。新三郎ハ。仙波七郎ニ弓手ノ腕ヲキラレテ

退ニケリ。南風一筋吹來テ。門ノ扉ヲ吹明タレハ。敵ノ懸出ルツトテ。下野守ノ兵トモ。左右ヘサツトツ逃タリケル。常陸國住人關次郎俊平計。片手矢注テ立タリ。臆病ノ殿原哉。風ニテアル者ヲト云ケレハ。各笑テ寄タリケリ。常陸國住人中藏三郎押寄。大事ノ手負テソノキニケル。甲斐國住人鹽見五郎。同六郎。轡ヲ並テ寄ルニ。御曹司ノ發ツ矢ニ。鹽見六郎。首ノ骨ヲ後ノシコロヘ射抜レテノケニ落。關次郎是ヲ見テ

馬ヨリ下リ。云云。此下。與京師本同。

○京師本杉原本竝云。常陸國住人關次郎。甲斐國住人鹽見五郎。同六郎。轡ヲ並テ懸出タリ。今度為朝例ノサキ細打番ヒ。真先ニ進タル鹽見五郎カ。首ノ骨ヲ射切ニト差當發チタリ。鹽見キツト見テ。矢ニ違ハニト首ヲ振ノケタレトモ。ナシカハハツルヘキ。矢所サコソ少上リタレ共。堯ノ鉢附ノ板ヲ。左ヨリ右ヘカセニツト射抜レ。真逆ニ落ケレハ。手捕與一京師本作與ニ。ヲ與前可并見。

り合。首ヲ搔切。矢ヲハ拔スレテ。首ト墮ヲ矢ニ  
テ荷<sup>テ</sup>ヒ。打カツキテワ出キタル。為朝打返レ打  
返レ見テ。我弓勢ノ程ヲソ愛レケル。關二郎是  
ヲ見テ。シタ、カ者ナレハ。馬ヨリ下リ。京師本  
云。馬ヲ  
押倒シ我馬ノ腹射サセタルヲヤトテ逃ニケ  
リ。云云。

其時信濃國住人。根井大彌太。藍摺直垂ニ。卯花威  
鎧ニ。星白ノ兜ヲ著。佐目ナル馬ニ乗タルカ。進出  
テ申ケルハ。軍ニ人ノ討ル、トテ。敵ニ息ヲ繼<sup>ツ</sup>セ

ニニハ。イツカ勝負ヲ決スヘキ。其上我等ハ餌ヲ  
求ル鷹ノ如シ。凶徒ハ鷹ニ恐ル雉<sup>キ</sup>ニアラスヤ。イ  
サヤ懸ニ殿原トテ。真先ニ進メハ。續ク兵誰々ヲ。  
同國住人宇野太郎。按。宇野蓋  
海野之訛。望月三郎。諏訪平五。  
進藤武者。桑原安藤次。安藤三。木曾中太。彌中太。根  
津。神平。志妻。小次郎。熊坂四郎ヲ始トシテ。二十七  
騎ヲ懸タリケル。門ノ中へ攻入テ。散ケニ戰ケレ  
ハ。手取與次。鬼田與三。松浦小次郎モ討レニケリ。  
都テ為朝ノ憑<sup>タ</sup>思ハレタル二十八騎ノ兵。二十三



人討レテ。大畧手ヲソ負タリケル。寄手モ究竟ノ  
兵五十三騎討レテ。七十餘人手負タリ。敵魚鱗ニ  
懸破ントスレハ。御方鶴翼ニ連リテ射セラハカ  
ス。御方陽ニ開テ圍ントスレトモ。敵陰ニ閉テ圍  
マレス。黄石公カ傳ル處。吳子孫子カ秘スル處。互  
ニ知タル道ナレハ。敵モチラス。御方モヒカス。サ  
レハ千騎カ十騎ニ成迄モ。果ヘキ軍トモ見ヘサ  
リケリ。兵庫頭頼政ノ手ニモ。渡邊黨ニ省授連源  
太。競瀧口ヲ始トシテ。東ノ門ヘ押寄テ。搦ニ搦テ

攻入ハ。平馬助忠正。多田藏人大夫頼憲。爰ヲ先途  
ト防戰フ。西門ヲハ。六條判官為義。張縮ノ直垂ニ。  
薄金ト云緋威鎧ニ。鍬形打タル堯ヲ著。連錢葦毛  
ナル馬ニ。白覆輪鞍置テソ乘レタル。五人ノ子共  
前後ニ立テ懸出タル體。哀大將軍ヤトソ見ヘタ  
リケル。其外自餘ノ陣々ニモ。互ニ入亂テ。追ツ返  
ツ戰ケレトモ。イマ夕勝負ソナカリケル。信濃人  
根井以  
下至此。京師杉原半  
井本各異。別出。于下。  
○半井本云。信濃國住人。蔭田近藤武者。桑原安藤

次。安藤三。各手負テ引退。木曾中太。彌中太モ。大  
事ノ手負テノキニケリ。根津新平。根井大野太  
モ手負ニケリ。志妻小次郎押寄テ。惡七別當ニ  
胸板射ラレテ馬ヨリ落。下野守ノ手武者共ノ  
面ニ立テ軍スル者。五十一人討レニケリ。大事  
ノ手負八十餘人。薄手負ハ註ニ及ハス。下野守  
郎等多ク討セテ引テ出。西ノ門ヲ攻。為義判官  
父子六人大將ニテ。命モ惜マス禦ケレハ。此門  
又多輒ク落ヘキ様モナシ。東門ハ。平馬助父子五

人。多田頼憲カ防ク處ヲ。頼政カ渡邊黨ヲ先ト  
シテ攻レトモ。打破テモ入ラス。流石ニ追モ返  
サレス。北ノ春日面ヲハ。左衛門大夫家弘カ弟  
ヤ子共相具シテ固タルニ。安藝守ソナタヘ向  
フカ。イマ夕寄モ附ス。凡門々ニハキメ墓目ノ音。矢  
叫ヤノ音隙モナシ。時ヲ移ス程ニ。アナタコナタ  
ニ死スル者數ヲ知ス。寅時ニ始タル合戰。卯時  
ノ終ニ成迄。何レコソ弱ケレトモ見ヘス。輒ク  
攻落シカタクソ見ヘケル。云云。

○京師本杉原本並云。其次ニ信濃國住人根井大  
 彌太進出軍ノ陣ヲハ破軍星ノ者コソ破ルナ  
 レ。ノケノケ殿原。此門ヲ打破ラントテ懸入所  
 ニ。須藤九郎能引テ發ツ矢ニ。胸板射サセテ落  
 ニケリ。根津神平懸出タリ。紀平次大夫組ニト  
 相近ツク所ヲ。神平能引テ射。鎧ノ引合ヲ篁濑  
 ニ射ラレテ落。木曾中太。彌中太。トメ矢。源太。大  
 矢新三郎。互ニ入替入替散々ニ戦ヒ。各手負テ  
 引退。桑原安藤次カケ出タリ。惡七別當クツケ

イ射サセテ落ニケリ。是等ヲ始トシテ。義朝ニ  
 相從フ兵共。我モ我モト入替入替。時移マテ戰  
 ケリ。矢場ニ討ル、者五十三人。創ヲ被ル者二  
 百餘人トソ聞ヘシ。為朝ノ方ニハ。紀平次大夫  
 ト。新三郎カ大事ノ手負タルト。高間兄弟討レ  
 タル外ハ。薄手ヲタニモ負サリケリ。爰ニ河原  
 面ヲ固タル。頼賢。頼仲。三十騎許ヲ相具シテ。  
 本云。為朝ノ固テ射合切合戦ケル。大  
 炊。御門西ノ門ヲカケヨケテ。云云。義朝ノ大  
 勢ノ中へ切テ入。蜘蛛手十文字ニ懸ツ返シツ。一

モ三揉テ攻戰フ。義朝安カラス思テ。頼賢頼仲  
ナラハ。餘スナ洩スナ討捕ヤトテ。真中ニ追捕  
籠ントスレハ。手ニモタマラス切テ廻リ。敵餘  
多討捕。御方ノ兵モ少ケ手負テ。懸破テ本ノ陣  
ヘツ歸ケル。八郎是ヲ見テ。怒テ申サレケルハ。  
何トモ思ヒ奉ラヌ舍兄ノ人々ニ。先ヲセラレ  
ツルコソ安カラ子トテ。太刀拔持ノケ墾ニ成  
テ喚テカク。義朝是ヲ見給ヒテ。叶ハシトヤ思  
ハレケン。引ワラシ河原ヲ向ヘ懸渡ル。為朝彌

怒ヲナシテ。彼陣ヘ懸入。此勢ニ懸合。切テハ落  
シ切テハステ。喚叫テ馳廻レハ。二三町カ内ニ  
ハ敵一人モナカリケリ。為朝合戰ニシカツテ  
控ヘタレトモ。近ク者モナキ上。馬疲ケレハ。靜  
靜ト引返シテ。本ノ門京師本云。本ノ門ニ打立  
テ。サシツメサシツメ射  
ケルニ。矢ニツ休マレケル。總シテ為朝合戰ノ  
勢ハ。矢一筋ニテ二人死スル事ハアレトモ。一  
人トシテ矢ニ中ルモノ射落サレ死セヌ者ハ  
ナシ。打物取テモ究竟ノ上手ナレハ。近ツク程

ノ敵ヲ切テ落サヌハナシ。頼政東門へ押寄。云  
此間。杉原本。與本書同。京師本云。頼政東ノ門  
 へ向フ。忠政頼憲防戰。破へウモナシ。西表ハ  
 判官父子防キケル間。入替入替戰  
 フ者ハアレ共。悉引退。云云。下同。春日面ヲハ。  
 家弘光弘以下手痛ク防キケル間。寄手ノ兵引  
 退。寅刻ヨリ。合戰。漸夜明日。日出ケル比ハ。寄手負  
 色ニ見ヘシカハ。為朝ヲ始トシテ。院方ノ兵。勝  
 ニ乘テヲ攻戰ケル。義朝清盛色ヲ失ヒ引退テ。  
 所々ニ控ヘタリ。云云。  
 其時義朝使者ヲ内裏へ進ラセテ。

○京師本杉原本竝云。義朝使者ヲ内裏へ進ラセ。  
 官軍敕命ヲ重シ。命ヲ輕シテ攻戰ノ事。既ニ數  
 刻ニ及トイヘトモ。逆徒誠ニ強クシテ。命ヲ失  
 ヒ創ヲ被ル者數ヲ知ス。偏伍陣破テ。敗北ノ蹄  
 轟キナントス。義朝頻ニ戰士ヲ勇。一陣ニ進ム  
 トイヘ共。殘黨ツ、カサル間。今ニ攻落ニ難。今  
 ハ火ヲ懸サラシ外ハ。云々。下同。  
 夜中ニ勝負ヲ決セント。搦ニ搦テ攻候ヘトモ。敵モ  
 堅ク防テ破リ難ク候。今ハ火ヲ懸サラシ外ハ。利有

へしトモ覺候ハス。但法勝寺ナトモ風下ニテ候  
 へハ。伽藍ノ滅亡ニヤ及候ハンスラシ。其段敷定  
 ニ隨フヘシト甲上ラレタリシカハ。少納言入道  
 承テ。義朝誠ニ神妙也。神妙京師杉原但君君ニテ  
 渡ラセ給ハ。法勝寺程ノ伽藍ヲハ。即時ニ建立  
 セラルヘシ。努努ヌヌソレニ恐ヘカラス。只急速ニ凶  
 徒誅戮ノ謀ヲ廻スヘシト仰下サレケレハ。御所  
 ヨリ西半井本ナル藤中納言家成卿參議家宿所  
 ニ火ヲ懸シカハ。西風烈今ニキ折節ニテハアリ。即

院御所へ猛火夥オモクシク吹懸タレハ。以下京師杉院  
 中上臈女房乳母童ハ。方角ヲ失テ。呼ヨケ叫サケテ迷アヘ  
 ルニ。武士モ是力足手纏ヒキニテ。進退更ニ自在ナラ  
 ス落行人ノ有様ハ。峯嵐ニサワハル。冬木葉異  
 ナラス。京師杉原本並云。門ヲ固タル兵。烟ニ嘔テ  
防戰へ共。門々破レテ。蜘蛛ノ  
子ヲ散ス如クニ成。云云。



